

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-222559

(43)公開日 平成10年(1998) 8月21日

(51)Int.Cl.<sup>4</sup>

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

D

審査請求 未請求 請求項の数19 O L (全 68 頁)

(21)出願番号 特願平9-26983

(22)出願日 平成9年(1997) 2月10日

(71)出願人 393031243

伊野 良一

東京都杉並区方南2丁目4番7号

(72)発明者 伊野 良一

東京都杉並区成田東1丁目25番8号

(74)代理人 弁理士 大塚 明博 (外1名)

(54)【発明の名称】 中古車の下取予測査定処理方法、及び中古車の下取予測査定処理装置

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出できるようにする。

【解決手段】 査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、メーカー名、車種タイプ、排気量、ミッション、グレード、ボディーカラーを特定し、査定予定時期を特定することによって査定予定時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データから予測する査定予定時期における走行距離に基づく走行距離実績額と車検の残期間による車検残存期間加算額によって修正する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 中古車の将来の下取査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、当該査定対象車の下取予定時期を特定し、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレードを選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の前記特定した下取予定時期における年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定するようにした中古車の下取予測査定処理方法。

【請求項2】 上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月を異なる下取予定時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の変更後の下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの変更後の下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定し、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格と変更後の下取予定時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにした請求項1に記載の中古車の下取予測査定処理方法。

【請求項3】 上記査定対象車の変更した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月をさらに異なる下取予定時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の最新に設定した下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した最新に設定した下

取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの最新に設定した下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に最新に設定した下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定し、上記査定対象車の最新に設定した下取予定時期における下取査定価格と前回設定した下取予定時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにした請求項1に記載の中古車の下取予測査定処理方法。

【請求項4】 中古車の乗換時期の下取査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、当該査定対象車の希望乗換時期を特定し、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレードを選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の現在の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して求めた現在の下取査定価格と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の前記特定した希望乗換時期の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該希望乗換時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して求めた希望乗換時期の下取査定価格と、を比較し、現在の下取査定価格と希望乗換時期の下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにした中古車の下取予測査定処理方法。

【請求項5】 上記査定対象車の当初指定した希望乗換時期における下取査定価格を演算した後、上記希望乗換

10

20

30

40

50

時期の年月を異なる希望乗換時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の変更後の希望乗換時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の希望乗換時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算し、かつ当該査定対象車の加修・補修箇所の有無に基づく加修・補修減算額を加味して下取査定価格を決定し、上記演算した現在の下取査定価格と変更後の希望乗換時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにした請求項4に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項6】 上記査定対象車の外装の現況に変化がある場合には外装の現況に基づく加減算額を求め、前記外装の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにした請求項1、2、3、4又は5に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項7】 上記査定対象車の内装の現況に変化がある場合には内装の現況に基づく加減算額を求め、前記内装の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにした請求項1、2、3、4、5又は6に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項8】 上記査定対象車の電装品の現況に変化がある場合には電装品の現況に基づく加減算額を求め、前記電装品の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにした請求項1、2、3、4、5、6又は7に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項9】 上記査定対象車の機関・足回りの現況に変化がある場合には機関・足回りの現況に基づく加減算額を求め、前記機関・足回りの現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにした請求項1、2、3、4、5、6、7又は8に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項10】 上記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況のそれぞれに変化がある場合には外装の現況に基づく加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額のそれぞれを求め、前記外装の現況による加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額のそれぞれを上記下取査定価格に加味して査定するようにした請求項1、2、3、4又は5に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項11】 上記外装の現況は、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかである請求項6又は10に記載の中古車の評価

査定の処理方法。

【請求項12】 上記内装の現況は、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかである請求項7、10又は11に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項13】 上記電装品の現況は、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウィンドウ左前の使用の可否、パワーウィンドウ左後の使用の可否、パワーウィンドウ右前の使用の可否、パワーウィンドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれかである請求項8、10、11又は12に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項14】 上記機関・足回りの現況は、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかである請求項9、10、11、12又は13に記載の中古車の下取予測査定の処理方法。

【請求項15】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、当該査定対象車の下取予定時期を入力する下取予定時期特定手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の

5

走行距離に基づいて演算した該下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定する査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の下取予測査定の処理装置。

【請求項16】 上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月を異なる下取予定時期の年月に変更して特定する下取予定時期変更手段と、当該査定対象車の変更後の下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の下取予定時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定する査定価格演算手段と、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格と変更後の下取予定時期における下取査定価格とを比較してその差額を演算して表示する下取査定価格比較手段と、によって構成してなる請求項15に記載の中古車の下取予測査定の処理装置。

【請求項17】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、当該査定対象車の希望乗換時期を入力する希望乗換時期特定手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ、

6

グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の現在の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離と当該車種タイプの現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して現在の下取査定価格を決定する現在査定価格演算手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該希望乗換時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの該希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して希望乗換時期の査定価格を決定する希望乗換時期査定価格演算手段と、前記現在査定価格演算手段によって求めた現在の下取査定価格と、前記希望乗換時期査定価格演算手段によって求めた希望乗換時期の査定価格とを比較し、その差額を演算して表示する査定価格比較演算手段と、によって構成してなる中古車の下取予測査定の処理装置。

【請求項18】 上記査定対象車の当初指定した希望乗換時期における下取査定価格を演算した後、上記希望乗換時期の年月を異なる希望乗換時期の年月に変更して特定する希望乗換時期変更手段と、当該査定対象車の変更後の希望乗換時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の希望乗換時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算し、かつ当該査定対象車の加修・補修箇所の有無に基づく加修・補修減算額を加味して下取査定価格を決定する査定価格演算手段と、上記演算した現在の下取査定価格と変更後の希望乗換時期における下取査定価格とを比較してその差額を演算して表示する下取査定価格比較手段と、によって構成してなる請求項17に記載の中古車の下取予測査定の処理装置。

【請求項19】 上記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況のそれぞれに変化がある場合には、該現況の変化があるものについての加減算額を求める現況変化に基づく加減算額演算手段と、前記加減算額演算手段によって求めた外装の現況による加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の

現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額等の該当する項目を上記希望乗換時期における下取査定価格に加味して査定するようにした請求項15、16、17又は18に記載の中古車の下取予測査定の処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、中古車の評価額を査定するときに行う評価査定の処理方法及び装置に関する。

【0002】

【従来の技術】経済事情の変化に伴い自動車産業は拡大し、それに伴い中古車市場も肥大化している。このように中古車市場が大きくなった今日、中古車業者及び需要者は、中古車が適正な価額で売買されることを強く望んでいる。このため、種々なる条件を基礎として設定された中古車の基準となる価額をメーカー別、車種タイプ別、グレード別に表にした冊子が業者向けに発行され、また需要者向けとして各種自動車関係雑誌等に掲載されている。かかる中古車価額の設定は、年式、仕様、グレードの他にその時の人気度合いをも基礎として冊子から探し出すようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような冊子は、中古車業者（ディーラー）が一般ユーザーから中古車を引き取る際の査定価格を決定するとき用いるものである。このため、この冊子では、メーカー毎、車種タイプ毎、年式毎、仕様毎、グレード毎、ボディーカラー毎に分類されて価格が設定されている。そこで、一般ユーザーが中古車業者に、自己車（中古車）を売るために持ち込んだ場合、中古車業者は、一般ユーザーから持ち込まれた査定対象車について、メーカー名、車種、タイプ、年式、仕様、グレード、ボディーカラーを中古車業者自らが特定し、この冊子に綴められている表の中から特定した中古車に該当する車種の基本査定価格（車を単なる物品として算出した新車価格からの残存価格）を選び出して決定し、現時点の当該車種の人気の度合い、走行距離の相違、各種部品の傷み具合等による査定者（中古車業者）の特別加減算額を加味して、当該査定対象車の最終査定価格を決定していた。

【0004】この冊子は、掲載されている自動車のメーカー数が多数に及び、各メーカーにおける車種数、その各車種におけるタイプ数、その各タイプにおける発売年式の数、その各発売年式におけるグレード数、さらに、その各グレードにおけるボディーカラーの数も多岐に亘り、それに伴って査定する際の査定項目が多くなっている。しかし、この冊子は、中古車業者（ディーラー）向けに作成されており、中古車業者が初めて使用する場合（初心者）であっても分かりやすく作製されている。そして、この冊子では、細かく査定内容が決められてお

り、これらの細かな査定内容を間違いなく特定していくことによって、初心者にも時間を掛ければ正確な査定額を算出することができるようになっている。ところが、この冊子は、初心者にも正確な査定額の算出ができるように、また、誰が査定しても正確な査定額を算出できるようにするため、査定項目が多く細かく表示されており、冊子を見るとき相当注意しないと間違った箇所（段を間違える等）を見てしまうことがある。このように、冊子の表の見間違いをすると中古車の下取り評価額を正しく査定することができず、標準査定より高く査定したり、標準査定より低く査定したりして、査定対象車の中古車価格が正確に査定されないことがある。

【0005】本発明の第1の目的は、ユーザーが持ち込んだ査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、当該査定車のミッション、グレード、ボディーカラーを特定し、査定予定時期を特定することによって査定予定時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データから予測する査定予定時期における走行距離に基づく走行距離実績額と車検の残期間による車検残存期間加算額によって修正して、誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出できるようにしようということにある。

【0006】本発明の第2の目的は、ユーザーが持ち込んだ査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、査定対象車のミッション、グレード、ボディーカラーを特定することによって査定対象車の現在の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データに基づく走行距離実績額と車検満了までの残期間による車検残存期間加算額によって修正した査定対象車の現在の査定価格と、希望乗換時期を特定することによって査定対象車の希望乗換時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データから予測する希望乗換時期における走行距離に基づく走行距離実績額と車検の残期間による車検残存期間加算額によって修正した査定対象車の希望乗換時期の査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、中古車の将来の下取査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーカーの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対



象車の特定を行い、当該査定対象車の下取予定時期を特定し、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の前記特定した下取予定時期における年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0008】本願請求項2に記載の中古車の下取予測査定処理方法は、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月を異なる下取予定時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の変更後の下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの変更後の下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定し、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格と変更後の下取予定時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにしたものである。このように構成することによって、一旦設定した査定予定時期を変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0009】本願請求項3に記載の中古車の下取予測査定処理方法は、上記査定対象車の変更した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月をさらに異なる下取予定時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の最新に設定した下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した最新に設定した下

取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの最新に設定した下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に最新に設定した下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定し、上記査定対象車の最新に設定した下取予定時期における下取査定価格と前回設定した下取予定時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにしたものである。このように構成することによって、一旦変更した査定予定時期をさらに変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を変更前の査定予定時期のディーラー査定価格と比較して算出することができる。

【0010】本願請求項4に記載の中古車の下取予測査定処理方法は、中古車の乗換時期の下取査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、当該査定対象車の希望乗換時期を特定し、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の現在の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して求めた現在の下取査定価格と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の前記特定した希望乗換時期の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該希望乗換時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して求めた希望乗

## 11

換時期の下取査定価格と、を比較し、現在の下取査定価格と希望乗換時期の下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにしたものである。このように構成することによって、査定対象車の現在の査定価格と査定対象車の希望乗換時期の査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0011】本願請求項5に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の当初指定した希望乗換時期における下取査定価格を演算した後、上記希望乗換時期の年月を異なる希望乗換時期の年月に変更して特定し、当該査定対象車の変更後の希望乗換時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の下取予定時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算し、かつ当該査定対象車の加修・補修箇所の有無に基づく加修・補修減算額を加味して下取査定価格を決定し、上記演算した現在の下取査定価格と変更後の希望乗換時期における下取査定価格とを比較し、その差額を演算して表示するようにしたものである。このように構成することによって、一旦設定した希望乗換時期から別な希望乗換時期を特定しても、誰にでも簡単に短時間で当初特定した希望乗換時期の査定価格と変更後の希望乗換時期の査定価格とを比較し、当初特定した希望乗換時期に乗換えるのが得策か、変更後に特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0012】本願請求項6に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の外装の現況に変化がある場合には外装の現況に基づく加減算額を求め、前記外装の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。このように構成することによって、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0013】本願請求項7に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の内装の現況に変化がある場合には内装の現況に基づく加減算額を求め、前記内装の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。このように構成することによって、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0014】本願請求項8に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の電装品の現況に変化

## 12

がある場合には電装品の現況に基づく加減算額を求め、前記電装品の現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。このように構成することによって、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0015】本願請求項9に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の機関・足回りの現況に変化がある場合には機関・足回りの現況に基づく加減算額を求め、前記機関・足回りの現況による加減算額を上記下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0016】本願請求項10に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況のそれぞれに変化がある場合には外装の現況に基づく加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額のそれぞれを求め、前記外装の現況による加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額のそれぞれを上記下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。このように構成することによって、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況に応じた適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0017】本願請求項11に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記外装の現況を、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかにしたものである。このように構成することによって、外装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0018】本願請求項12に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記内装の現況を、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかにしたものである。このように構成することによって、内装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0019】本願請求項13に記載の中古車の下取予測査定の処理方法は、上記電装品の現況を、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウィンドウ左前の使用の可否、パワーウィンドウ左後の使用の可否、パワーウィンドウ右前の使用の可否、パワーウィンドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれか

## 13

にしたものである。このように構成することによって、電装品の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0020】本願請求項14に記載の中古車の下取予測査定処理方法は、上記機関・足回りの現況は、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかにしたものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0021】本願請求項15に記載の中古車の下取予測査定処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、当該査定対象車の下取予定時期を入力する下取予定時期特定手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該下取予定時期の予想実走行距離と、当該車種タイプの該下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定する

## 14

査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0022】本願請求項16に記載の中古車の下取予測査定処理装置は、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格を演算した後、上記下取予定時期の年月を異なる下取予定時期の年月に変更して特定する下取予定時期変更手段と、当該査定対象車の変更後の下取予定時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の下取予定時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の下取予定時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の下取予定時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して下取査定価格を決定する査定価格演算手段と、上記査定対象車の当初指定した下取予定時期における下取査定価格と変更後の下取予定時期における下取査定価格とを比較してその差額を演算して表示する下取査定価格比較手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、一旦設定した査定予定時期を変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0023】本願請求項17に記載の中古車の下取予測査定処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、当該査定対象車の希望乗換時期を入力する希望乗換時期特定手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ



ブ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の現在の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離と当該車種タイプの現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して現在の下取査定価格を決定する現在査定価格演算手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した該希望乗換時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの該希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して希望乗換時期の査定価格を決定する希望乗換時期査定価格演算手段と、前記現在査定価格演算手段によって求めた現在の下取査定価格と、前記希望乗換時期査定価格演算手段によって求めた希望乗換時期の査定価格とを比較し、その差額を演算して表示する査定価格比較演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、査定対象車の現在の査定価格と査定対象車の希望乗換時期の査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0024】本願請求項18に記載の中古車の下取予測査定の処理装置は、上記査定対象車の当初指定した希望乗換時期における下取査定価格を演算した後、上記希望乗換時期の年月を異なる希望乗換時期の年月に変更して特定する希望乗換時期変更手段と、当該査定対象車の変更後の希望乗換時期の年月に基づく年式の基本査定価格に、上記査定対象車の現在の走行距離に基づいて演算した変更後の希望乗換時期の予想実走行距離と、走行距離と当該車種タイプの変更後の希望乗換時期における標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に変更後の希望乗換時期に残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算し、かつ当該査定対象車の加修・補修箇所の有無に基づく加修・補修減算額を加味して下取査定価格を決定する査定価格演算手段と、上記演算した現在の下取査定価格と変更後の希望乗換時期における下取査定価格とを比較してその差額を演算して表示する下取査定価格比較手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、一旦設定した希望乗換時期から別な希望乗換時期を特定しても、誰に

でも簡単に短時間で当初特定した希望乗換時期の査定価格と変更後の希望乗換時期の査定価格とを比較し、当初特定した希望乗換時期に乗換えるのが得策か、変更後に特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0025】本願請求項19に記載の中古車の下取予測査定の処理装置は、上記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況のそれぞれに変化がある場合には、該現況の変化があるものについての加減算額を求める現況変化に基づく加減算額演算手段と、前記加減算額演算手段によって求めた外装の現況による加減算額、内装の現況に基づく加減算額、電装品の現況に基づく加減算額、機関・足回りの現況に基づく加減算額等の該当する項目を上記希望乗換時期における下取査定価格に加味して査定するようにしたものである。

【0026】このように構成することによって、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した希望乗換時期を特定することによって査定対象車の希望乗換時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データから予測する希望乗換時期における走行距離に基づく走行距離実績額で修正した査定対象車の希望乗換時期の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味して求めた査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにできる。

【0027】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る実施の形態について説明する。図1～図24には、本発明に係る中古車の下取予測査定の処理方法及び中古車の下取予測査定の処理装置の一実施の形態が示されている。この中古車の下取予測査定の処理方法及び中古車の下取予測査定の処理装置は、現在、新車又は別な中古車に乗り換えるつもりがないが、近い将来乗り換えるので、その時点（特定の時期）における現車の下取り額がいくらになるか予測査定を行い、乗換え時期の参考にしようというものである。本発明に係る中古車の下取予測査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図1～図5には、本発明に係る中古車の下取予測査定の処理装置の一実施の形態を示す査定処理フローチャートが示されている。

【0028】図において、ステップ1において、査定対象車（現車）の下取予測査定を依頼してきた顧客者の顧客情報の入力と車種タイプの選定を行う。顧客情報には、現車の下取予測査定を依頼してきた顧客者の氏名、住所・電話番号がある。顧客者の氏名は、業者（ディーラー）に現車の下取予測査定を依頼した人の氏名で、住所・電話番号は、業者（ディーラー）に現車の下取予測査定を依頼した人の住所と電話番号で、顧客を特定す

るためと、顧客リストを作成する際に整理するために役立てる。

【0029】また、現車の車種タイプの選定を行うための現車の必要情報の入力を行う。現車の車種タイプの選定のための現車情報には、初年度登録年月日、登録番号、車検満了年月日、台車番号、メーカー／排気量、車種／タイプ、現車走行距離があり、さらに、現車の乗換えを予定している時期、すなわち下取予定時期を特定することが必要である。これらの特定を行うことにより初めて下取予測査定を行うことができる。必要に応じてミ

ッション、A/C有無、S/R有無、メーター状況、さらには、査定する業者の情報として査定区分、査定担当者の入力項目がある。初年度登録年月日は、新車で購入したときに陸運局（関東地方であれば、関東陸運局）に登録した日付で、例えば、平成7年12月8日などである。この初年度登録年月日は、年式を決定する上で重要な事項で、初年度登録年月日が、例えば、平成7年12月8日であれば、現車の年式は、平成7年1月～平成7年12月に発売された車ということになる。

【0030】登録番号は、陸運局に登録した番号で、ナンバープレートに表示する番号で、例えば、練馬ー33ーはー8304などである。車検満了年月日は、実際に車検が満了する日で、現車が初年度登録年月日から3年未満であれば、初年度登録年の3年後の応答日の前日、すなわち、例えば、初年度登録年月日が平成7年12月8日であれば、車検満了年月日は平成10年12月7日ということになる。2回目以降の車検の場合は、2年車検であるので初年度登録年月日から5年目、7年目ということになる。車台番号は、自動車毎につけられた番号で、例えば、88888である。メーカー／排気量は、台車番号が入力されると、予め記憶されている複数のメーカー名（対象とする全メーカー、トヨタ、日産、ホンダ、ベンツ、BMW等）が表示され、この中から現車に該当するメーカー名を選択できるようになっている。表示されたメーカー名の中から現車に該当するメーカー名、例えば、トヨタを選択すると、現車の排気量が入力可能になる。現車の排気量を例えば、3000ccと入力すると、当該メーカーから発売されている車種／タイプの選択に入る。発売されている車種／タイプの中から現車の車種／タイプを、例えば、クラウン・セダンと

選択する。

【0031】ミッションは、オートマチックか、マニュアルミッションかの選択をするもので、現車のミッションの状態、例えば、オートマチックを入力する。A/Cは、エアコンで、エアコンの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準でエアコン有である。また、S/Rは、サンルーフで、サンルーフの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準装備でサンルーフ無である。さらにメーター状況であるが、メーター状況は、メーター戻しが行われているか（戻し歴が

有るか）否か、現在付いているメーターが現車の発売当初から付いていたメーターから新しいメーターに交換したものか（交換歴が有るか）、それ以外（正常）を入力する。このミッション、A/C有無、S/R有無を入力すると、現車走行距離の入力に入る。この現車走行距離は、現車の現在までの総走行距離のことで、走行距離評価（Km査定）の基礎になるもので必須入力項目である。この現車走行距離を入力しても、現車の基準走行距離（初年度登録年月日から現在の時点までに現車が走行する平均的な走行距離）を遥かに超えて走行している超多走行の場合（例えば、基準走行距離が11,000Kmであるのに、50,000Kmをオーバーするような走行距離の場合）は、原則として査定不可（査定できない）ことになり、処理を続行しようとすると、本査定ではなく暫定査定となる。この現車走行距離は、現車の査定時までに走行した総走行距離を入力すればよく、例えば、4396Kmである。

【0032】下取予定時期は、実際に顧客が乗換えを予定している時期で現在から将来に向かっての年月を入力する。現在より過去の年月を入力すると処理ができない。また、現在の年月、例えば平成8年12月を入力すると、現車の現在の下取査定価格が演算される。

【0033】査定区分は、今回の査定が、本査定なのか、暫定査定なのかの特定をするもので、本査定というのは、現車の状況を詳しく入力することによって本格的に行う査定のことで、暫定査定というのは、現車の状況を必要条件だけを入力して大体の査定額（年式に基づいて算定された下取査定価格）を求めるために行う査定のことである。先に述べたように超多走行の場合は、本査定を選択できず、自動的に暫定査定となる。査定担当者は、業者（ディーラー）の誰が担当したかを明確にするためのもので必須入力項目ではない。このようにして必要事項を入力すると、図6に示す如く顧客情報の入力と車種タイプの選定が終了する。

【0034】このステップ1において顧客情報の入力と車種タイプの選定を行うと、ステップ2において、現車を査定する際に必要な必須情報の入力終了したか否かを判定する。すなわち、ステップ2においては、現車を査定するに必要な基本データである初年度登録年月日、車検満了年月日、メーカー／排気量、車種／タイプ、現車走行距離、下取査定時期の入力が終了しているか否かを判定する。これらのデータが入力されないと次の処理がなされない。これら入力基本データの内、車検満了年月日と排気量は必須入力項目ではなく、データの入力がなくても処理を続行することは可能となっている。

【0035】ステップ2において現車を査定する際に必要な必須情報の入力終了したと判定すると、ステップ3において、ステップ1において入力したメーカー／排気量、車種タイプの選定から発売期間の特定（年式の特定）を行う。この発売期間の特定は、同じ年に現車と同

一の車種についてフルモデルチェンジが行われている場合、同時期に、フルモデルチェンジ前の車とフルモデルチェンジ後の車の両方が発売されており、自動的に発売期間を特定できない場合があるときに行う。例えば、平成7年12月に発売されていたトヨタ クラウン セダンは、平成7年1月から発売されている車が平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたというだけでは、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売された車、すなわちフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売された車、すなわちフルモデルチェンジ後の車なのか不明となっている。そのため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたトヨタ クラウン セダンの場合は、図7に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのかを選択して入力することが必要となる。そこで、現車が例えば、平成7年1月～平成7年11月までに発売された車で、フルモデルチェンジ前の車である場合は、その旨を入力する。したがって、フルモデルチェンジが行われていない場合には、ステップ3の作業は省略され自動的に発売期間が特定される。

【0036】ステップ3において現車の発売期間の特定（年式の特定）が行われると、ステップ4において、ステップ3で特定した発売期間に発売されたステップ1で選定したメーカー／排気量、車種タイプについてのグレードを図8に示す如く一覧表示する。平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン3000CCの車には、図8に示すように4つのグレードが存在する。そこで、これら一覧表示された4つのグレードの中から、ステップ5において、現車のグレードを、例えば、RサルーンGを選択する。

【0037】ステップ5において現車のグレードの選択を行うと、ステップ6において、現車の確認を行う。すなわち、ステップ6において、ステップ1とステップ3とステップ5において選定した現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を図9に示す如く表示する。この主要諸元は、メーカー（例えば、トヨタ）、車種タイプ（例えば、クラウン、セダン）、発売期間（例えば、7年1月～7年11月）、排気量（例えば、3000cc）、エンジン種類（例えば、DOHC）、燃料供給装置（例えば、EFI）、駆動装置（例えば、2WD）、ドア数（例えば、4ドア）、グレード（例えば、RサルーンG）、形式（例えば、E-JZS135）、定員（例えば、5人）、ミッション（例えば、4A；フロア4速オートマチック）、新車価格（例えば、4,030,000円）等である（他に、過給器、屋根形状がある）。このステップ6において現車の主要諸元を確認

し、現車の主要諸元に間違いがなければ、ステップ7において、現車のボディカラーの選定に移る。すなわち、ステップ7において、ステップ5において選定した現車と同一車種タイプに用いられたボディカラーを図10に示す如く一覧表示する。選定したグレードで平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン 3000CCの車は、図10に示すように6種類である。

【0038】このステップ7において現車と同一車種に用いられたボディカラーが一覧表示されると、ステップ8において、この一覧表示された各種ボディカラーの中から現車のボディカラー（例えば、シルバーメタリック）を選択入力する。車は、同じ車種タイプ・グレードであってもボディカラーによって人気の度合いが異なり、人気ボディカラーの場合には需要が多く、不人気ボディカラーの場合には需要が少ないといったようにボディカラーが中古市場における売れ行きに大きな影響を与えている。このため、ボディカラーの相違は、人気ボディカラーの場合には査定価格が高くなり、不人気ボディカラーの場合には査定価格が低くなるといったように査定価格の相違となって現れる。

【0039】ステップ8において現車のボディカラーを選択入力すると、ステップ9において、現車についての外装の現状の入力を行う。外装の現状入力は、図11に示す如く、修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要の有無・全塗装歴があるか否か、現状事故車か否かの4項目である。修復歴の有無は、以前に外装破損を起こし修復してある場合、修復歴有で、外装破損を起こしていなければ修復歴無となる。改造車については、改造車でないのが原則で、改造している場合、その改造がドレスアップ改造なのか、違法改造なのかの入力が必要である。全塗装については、外装の傷みが酷く塗装をし直す必要があるかないか、また、全塗装歴があるか否かで、この全塗装歴有りの場合に元色全塗装（新車のときと同じ色で全塗装し直し）なのか色替全塗装（新車のときと別な色で全塗装し直し）なのかである。また、現状事故車については、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。これら修復歴有、違法改造、全塗装要、現状事故はいずれも査定上マイナス要因である。また、原則として重度の修復歴有、重度の現状事故車の場合は、本査定はできず、暫定査定となる。このように重度の修復歴有、重度の現状事故車の場合は、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。

【0040】ステップ9において現車についての外装の現状入力を行うと、ステップ10において、外装現状についての必要事項の入力が行われたか否かを判定する。すなわち、ステップ9において外装現状について修復歴

## 21

の有無、改造の有無、全塗装要否、現状事故の有無の入力を行い、ステップ10において必要事項の入力が行われたと判定すると、ステップ11において、図11に示す如き加修・補修歴の入力を行う。加修・補修歴の入力項目としては、バンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、ルームクリーニングが済んだか否か、シートの補修歴の有無、ドア内張りの補修歴の有無、天井の補修歴の有無、じゅうたんの補修歴の有無がある。加修・補修歴のある各項目に対しては、軽度の傷、重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換歴が有りのいずれかの損傷歴を入力する。これら加修・補修歴の入力項目は、評価無し（加修・補修歴無し）以外は、いずれも加修・補修歴における損傷の程度によって査定上マイナス要因になり得るものである。

【0041】ステップ11において加修・補修歴の入力を行うと、ステップ12において、図12に示す如き加修・補修歴の入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ12において図12に示す如き加修・補修歴の入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ13において、図13に示す如き外装関係の現状入力を行う。外装関係の現状入力項目としては、バンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、タイヤの使用の可否、ガラス交換の要否、ヘッドランプの状態、テール・コンビランプの状態がある。各項目に対しては、軽度の傷、重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換を要する、のいずれかの損傷状態を入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0042】ステップ13において外装関係の現状入力を行うと、ステップ14において、図13に示す如き外装関係の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ14において図13に示す如き外装関係の現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ15において、現車についての内装の現状の入力を行う。内装の現状入力は、図14に示す如く、室内の状況、トランクルームの状況、タバコ・ベットの臭い、ダッシュボードの破損の4項目である。室内の状況は、室内の状況に問題がないかあるかで、問題がある場合、問題の状況が、室内の汚れ、シートの破損、ドア内張の破損、天井の破損、じゅうたんの破損に関する項目についてチェックをする。すなわ

## 22

ち、室内の汚れが無いかわるか、シートの破損が無いかわるか、ドア内張の破損が無いかわるか、天井の破損が無いかわるか、じゅうたんの破損が無いかわるかを入力する。トランクルームの状況は、トランクルームの状況に問題が無いかわるか、タバコ・ベットの臭いは、車室内にタバコ・ベットの臭いが着いているか否かの問題であり、ダッシュボードの破損は、ダッシュボードが破損しているか否かの問題である。これら内装の現状入力項目は、問題なし以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0043】ステップ15において内装の現状入力を行うと、ステップ16において、図14に示す如き内装の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ16において図14に示す如き内装の現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ17において、現車についての電装品の現状の入力を行う。電装品の現状入力は、図15に示す如く、エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ左前、パワーウィンドウ左後、パワーウィンドウ右前、パワーウィンドウ右後、ワイパー関係、メーターパネルの9項目である。これらについては、いずれも通常の使用が可能かどうか、すなわち、エアコンの通常の使用が可否、バッテリーの通常の使用が可能か交換が必要か、時計の通常の使用が可能か交換が必要か、パワーウィンドウ左前の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ左後の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ右前の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ右後の通常の使用が可能か作動不可修理要か、ワイパー関係の通常の使用が可能か交換が必要か、メーターパネルの通常の使用が可否の入力を行う。これら電装品の現状入力項目は、通常の使用が可能以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0044】ステップ17において電装品の現状入力を行うと、ステップ18において、図15に示す如き電装品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ18において図15に示す如き電装品の現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ19において、現車についての機関・足回りの現状の入力を行う。機関・足回りの現状入力は、図16に示す如く、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目である。これらについては、いずれも通常に使用できるか、通常の使用が困難か否かの入力を行う。

【0045】これら機関・足回りの現状入力項目は、通常の使用が困難な場合は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0046】ステップ19において機関・足回りの現状入力を行うと、ステップ20において、図16に示す如き機関・足回りの現状入力についての全項目の入力がな

## 23

されたか否かの判定を行う。このステップ20において図16に示す如き機関・足回りの現状入力全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ21において、現車についての装備品の現状の入力を行う。装備品の現状の入力は、図17、図18に示す如く、ステレオ・コンボ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキの10項目である。これらについては、いずれも標準装備か、オプション装備か、使用状態が使用可能か不可能かの入力を行う。ステレオ・コンボ・CD以外は、標準装備では無しで、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSはオプションで追加装備となる。工具、ジャッキは、装備されているのが通常である。標準装備のステレオ・コンボ・CDについては、使用可能の状態が通常で、『無し』であったり、『使用不可』であったりした場合には、査定上マイナス要因となる。また、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSについては、オプション(OP)で追加装備されていれば査定上プラス要因となる。OP-A、OP-B、OP-Cはそれぞれオプションのグレードを示しており、OP-Aが査定金額が最も高く、OP-B、OP-Cと査定金額は下がっていく。これらオプション装備品についても、使用可能の状態か否かで査定金額は異なる。使用が不可能の状態の場合、オプション装備品を単に取り外すだけでは新車当時の仕様に戻らないような場合は、むしろ査定上マイナス要因となる。工具、ジャッキは、装備されているのが当然で、工具が不足している場合、工具、ジャッキが無い場合は、査定上マイナス要因となる。さらに特に高価な工具、ジャッキがオプション装備されている場合は、その状況によって査定上プラス要因になることがある。

【0047】装備品の現状入力終了すると、現車の査定に必要な全ての情報の入力を完了することになる。そこで、このステップ21において装備品の現状入力を行うと、ステップ22において、図17、図18に示す如き装備品の現状入力についての全項目の入力となされたか否かの判定を行う。このステップ22において図17、図18に示す如き装備品の現状入力全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ23において、現車についての査定額の演算を行う。この演算は、査定ボタンを押して行うが、この査定ボタンは、図19に示す如く、5つのボタンで構成することもでき、この場合のボタンは、例えば①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定とすることができる。この査定ボタンは、査定する側の裁量の余地を残す場合に有効で、交渉の成り行きによって最終査定額の調整を行えるようにするものである。この査定調

## 24

整範囲は、5%10%に限らず、7%、15%でも、10%、20%でも自由に設定することが可能である。このように査定ボタンを押す(例えば、標準査定の①を押す)ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、ステップ24において、演算結果が確定下取り査定額として下取予定時期における予測査定額が図20に示す如く表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付(例えば、平成8年12月16日)、確定下取り査定額(例えば、¥2,160,510)、有効期限(例えば、平成8年12月30日迄)が同時に表示される。

【0048】ステップ24において、現車の下取予定時期における確定下取り査定額を表示すると、ステップ25において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うか否かの判定を行う。このステップ25において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うと判定すると、ステップ26において、図21～図23の査定詳細情報の表示を行う。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、さらに、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額のそれぞれである。本実施の形態の場合は、現車走行距離が4,396Kmであるのに対し、基準走行距離が11,050Kmで、この基準走行距離に対する現車は、6,654Km少走行となり、この6,654Km少走行に対する走行距離評価額は、¥73,194となる。さらに、車検残についての評価額は、車検残が23ヶ月の残で¥161,000となる。この走行距離評価額、車検残の評価額は、査定上プラス要因となっている。したがって、少走行に対する走行距離評価と車検23ヶ月残の評価額を差し引いた額、¥1,926,316が車両本体の評価額となる。

【0049】また、ステップ25において確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行わないと判定すると、ステップ27において、乗換え査定を行うか否かを判定する。乗換え査定は、当初予定した下取予定時期を変更して査定をすることで、ステップ27においては、本実施の形態において指定した下取予定時期(平成8年12月)を変更するか否かである。このステップ27において、乗換え査定を行わないと判定すると、このフローを終了する。そして、このステップ27において、乗換え査定を行うと判定すると、ステップ28において、当初入力した下取予定時期(平成8年12月)と異なる乗換予定時期(例えば、平成9年2月)の入力を行う。このステップ28において、下取予定時期を変更



して異なった乗換予定年月を入力すると、ステップ29において、図24に示す如き希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行う。この希望乗換時期のシュミレーション査定における平成9年2月の乗換希望時期の予測走行距離は、現車の初年度登録年月日から現在までの総走行距離に基づいて演算して平成9年2月までに走行する距離を予測したもので、平成8年12月現在の総走行距離が4,396Kmの場合、平成9年2月時の予測走行距離が5,128Kmとなる。この希望乗換時期における予測走行距離と年式とから希望乗換時期の下取査定額が¥2,095,118と予測演算され、当初の下取査定額との差が¥65,392ということになる。このステップ29において、希望乗換時期のシュミレーション査定が終了すると、ステップ30において、再度、乗換え査定を行うか否かを判定する。このステップ30において、再度の乗換え査定を行わないと判定した場合には、このフローを終了する。また、ステップ30において、再度、乗換え査定を行うと判定すると、ステップ31において、一度変更した乗換え査定時期（平成9年2月）と異なる乗換予定時期（例えば、平成10年2月）の入力を行う。このステップ31において再度乗換予定時期（例えば、平成10年2月）の入力すると、ステップ32において、最初に設定した乗換え予定年月の現車の査定予測額と今回設定した乗換え予定年月の査定予測額を対比して表示するか否かを判定する。このステップ32において最初に設定した乗換え予定年月の現車の査定予測額と今回設定した乗換え予定年月（下取予定時期）の査定予測額を対比して表示すると判定すると、ステップ33において、最初に設定した乗換え予定年月の現車の査定予測額と今回設定した乗換え予定年月の査定予測額を対比して表示すると共に、その差額を表示する。このステップ33において表示をすると、ステップ30に戻り、再度、乗換え査定を行うか否かを判定する。

【0050】また、ステップ32において最初に設定した乗換え予定年月の現車の査定予測額と今回設定した乗換え予定年月の査定予測額を対比して表示しないと判定すると、ステップ34において、図25に示す如く前回設定した乗換え予定年月における現車の査定予測額と今回新たに設定した乗換え予定（下取予定）年月の査定予測額を対比して表示すると共に、その差額を表示して希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行う。この図25に示す如き希望乗換時期のシュミレーション査定における平成10年2月の乗換希望時期の予測走行距離は、現車の初年度登録年月日から現在までの総走行距離に基づいて演算して平成10年2月までに走行する距離を予測したもので、平成8年12月現在の総走行距離が4,396Kmの場合、平成10年2月時の予測走行距離が9,520Kmとなる。この再度変更した希望乗換時期における予測走行距離と年式とから希望乗換時期の

下取査定額が¥1,665,041と予測演算され、平成9年2月の下取査定額との差が¥430,077と表示される。このステップ33において希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行うと、ステップ30に戻り、再度、乗換え査定を行うか否かを判定する。ステップ30において、再度、乗換え査定を行う場合は、ステップ31～ステップ34の処理と同様の処理を行い、ステップ30において、再度、乗換え査定を行わないと判定すると、このフローを終了する。

【0051】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが持ち込んだ現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、現車のミッション、グレード、ボディーカラーを特定し、下取予定時期を特定することによって下取予定時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、現車の現走行距離データから予測する下取予定時期における走行距離に基づく走行距離実績額で修正して、誰にでも簡単に短時間で適正な下取予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0052】図26には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法を実現するための中古車の評価査定の処理装置の一実施の形態の基本構成が示されている。図において、30はCPUで、31はROM、32はRAM、33はI/O、34は入力装置、35はディスプレイ、36は各機器を接続するバスラインである。CPU200は、不揮発性メモリーで、入力装置204からI/O203を介して入力される入力信号に基づいて駆動するもので、入力装置204の操作によって必要なデータをROM201から読み出してディスプレイ205上に表示したり、入力装置204から入力されるデータをRAM202に格納したり、ROM201内のデータとRAM202内のデータとから必要な演算を行うものである。

【0053】ROM201は、各種データを予め記憶しておくもので、ROM201には、

- a) 現存の乗用車メーカーの名称
- b) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種と、そのタイプ
- c) 各メーカーの各車種及びタイプについてのモデル
- d) 各メーカーの各車種及びタイプについてのグレード・エンジン・型式・駆動装置・ドア数・過給器・定員・屋根形状
- e) 各メーカーの現在発売している車種及び過去7年以内に発売した車種タイプの新車価格
- f) 各メーカーの各車種及びタイプについての各ボディーカラー
- g) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種タイプ、ボディーカラーに基づいた年式だけによる本体の基本査定価格
- h) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売

した車種タイプ毎の基準走行距離

i) 各車種タイプ毎の少走行時の単位距離当りの加算金額及び過走行時の単位距離当りの減算金額

j) 外装の現状入力項目

k) 加修・補修歴の入力項目

l) 外装関係の現状入力項目

m) 内装の現状入力項目

n) 電装品の現状入力項目

o) 機関・足回りの現状入力項目

p) 装備品の現状入力項目

q) 査定調整範囲

が記憶されている。RAM202は、揮発性メモリで、入力装置204から入力したデータを格納すると共に、入力装置204から入力したデータに基づき演算した結果を格納する機能を有し、書き替え可能に構成されている。I/O203は、入力装置204とCPU200とを接続するインターフェイスである。

【0054】入力装置204は、データを書き込んだり、ROM201に記憶されているデータをCPU200に読み出させてプログラムを実行させたり、書き込んだデータに基づいてCPU200に演算処理させたり、CPU200で演算処理した結果をRAM202に書き込ませたりする入力機器である。この入力装置204は、キーボードでキー入力する方法、マウスでカーソルを移動して画面表示項目から選択入力する方法がある。また、さらに入力装置204は、必要項目を記入した読取りスキャナーによる方法があり、この読取りスキャナーの場合は、車検証を読取りスキャナーで読み取らせる方法がある。この車検証を読み取らせる方法は、車検証をスキャナーに掛けることによって、車検証から顧客者の氏名、住所、査定対象者の型式（例えば、E-JZS135）、登録番号（例えば、練馬33 ほ 8304）、車体番号（例えば、88888）、排気量（例えば、3000cc）、ミッション（例えば、オートマチック）、駆動装置（例えば、2WD）、初年度登録年月日（例えば、平成7年12月8日）を読み取るようにしたものである。また、読取りスキャナーの場合は、車検証以外に特製の査定書、マークシート等によっても可能である。ディスプレイ205は、ROM201から読み出したデータを表示したり、CPU200で演算処理した結果を表示したりする表示装置である。バスライン206は、CPU200とROM201を、CPU200とRAM202を、CPU200とI/O203とを接続する接続線である。

【0055】このコンピュータシステムは、オフィスコンピュータ又はパーソナルコンピュータによって構成することが可能である。この場合、あらゆる製造メーカー、製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在まで使用期間及び人気の度合いに基づく基準

査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の基本走行データ等のデータは、ROM201に格納することになるが、これらのデータは、社会の情勢（例えば、流行）に応じて変化するため、定期的な修正が必要で、この修正は、ROM201内のデータの書き替えを行うことになる。この場合、このコンピュータシステムを利用する者にデータを提供する場合がROM201の交換等を行うことになる。

【0056】また、このコンピュータシステムは、内外のあらゆる製造メーカー、それら製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在まで使用期間及び人気の度合いに基づく基準査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の基本走行データ等、社会の情勢に応じて変化する車のあらゆるデータをホストコンピュータに持たせ、これらのデータを使用する者に端末機をもたせてランで接続することもできる。この場合、これらのデータを使用する者は端末機を操作することによって必要に応じてホストコンピュータに格納されているデータを読み出し、現車の査定を行うことができる。このように必要なデータをホストコンピュータに持たせると、これらのデータを社会の情勢に合わせて変更し、定期的（例えば、月毎に）書き替えを行うことができ、査定を行うディーラーあるいはユーザーは、最新の査定基準を手軽に入手することができることになる。

【0057】このように構成されるシステムにおいて、システムを立ち上げると、ディスプレイ205に図6に示す如き顧客情報の入力画面が表示される。この顧客情報の入力、売手・買手を特定し、査定区分、下取予定時期（例えば、平成8年12月）、査定担当者（例えば、道祖土 和正）を特定するためのもので、入力装置204によって入力を行い、この入力データはRAM202に格納される。次に入力装置204を操作して予めROM201に記憶されている製造メーカー名（トヨタ、日産、マツダ、ベンツ、BMW等）を読み出してディスプレイ205に一覧表示する。この一覧表示された製造メーカー名の中から入力装置204を操作して現車の製造メーカー名（例えば、トヨタ）を選定する。製造メーカーの選定を行うと、該製造メーカーの車種タイプの頭文字（例えば、ク）を選定してCPU200の動作によってROM201に予め記憶されている車種タイプの中から選定した頭文字（ク）の付く車種タイプ（クラウン 4ドアハードトップ、クラウン セダン、クレスタ セダン、グランビア ワゴンの4種）をディスプレイ205に一覧表示する。この一覧に表示された車種タイプの中から現車の車種タイプ（例えば、クラウン・セダン）を入力装置204によって選定する。

【0058】現車の車種タイプを選定すると、CPU200の駆動によってディスプレイ205に選定した車種タイプが図6に示す如く表記される。ディスプレイ20

5に表示される図6に示す如き顧客情報の入力画面の内、入力装置204によって入力するのは、初年度登録年月日（現車の登録年月日）、登録番号、車検終了年月日（現車の車検終了日）、車体番号、ミッション（オートマか、マニュアルか）、A/C有無、S/R有無、メーター状況、現車走行距離である。この初年度登録年月日と車検終了年月日を入力装置204で、例えば、初年度登録：平成7年12月8日、車検終了年月日：平成10年12月7日と入力すると、現車の年式及び車検の残存期間（23ヶ月）が決定する。

【0059】さらに査定区分（本査定か、暫定査定か）、査定を行う担当者を特定する査定担当者の特定（例えば、道祖土 和正）を入力装置204によって行う。

【0060】現車のメーカー／排気量、車種タイプが選定（例えば、トヨタ・クラウン・セダン・3000CC）され、初年度登録年月日が特定すると、同種タイプの車についてROM201に予め記憶されている発売期間（年式）を特定する。平成7年12月8日に初年度登録されたトヨタ・クラウン・セダン・3000CCは、平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、図7に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車の年式を、例えば、平成7年1月～平成7年11月と特定する。この特定された現車の年式は、RAM202に記憶される。

【0061】現車のメーカー／排気量、車種タイプ、年式が特定されると、現車と同一の車種タイプについて、ROM201に予め記憶されている現車の年式の各種グレードと共にエンジン、型式、駆動装置、ドア数、過給器、定員、屋根形状がディスプレイ205に図8に示す如く一覧表示される。このディスプレイ205に一覧表示される図8に示す如き各種グレードの中から現車と同一のグレード（例えば、RサルーンG）を入力装置204によって選定し、この入力装置204によって選定されたグレードにする。

【0062】このように現車のメーカー／排気量、車種タイプ、初年度登録年月日、ミッション、グレードの選定を行うと、CPU200の動作によって、ディスプレイ205に現車の主要諸元（メーカー、車種タイプ、発売期間、排気量、エンジン種類、燃料供給装置、過給器、駆動装置、ドア数、屋根形状、グレード、型式、定員、ミッション、新車価格、類別区分）を図9に示す如く表示する。

【0063】ディスプレイ205に表示される図9の如き現車の主要諸元を確認し、入力装置204によって確認の入力を行うと、CPU200が動作して、図10に示す如く、現車と同一車種タイプの車として発売された当時の各種ボディカラーが一覧表示される。この図10に示される平成6年1月に発売されたトヨタ・クラウ

ン・セダンのボディカラーの中から現車のボディカラー（例えば、シルバーメタリック）を入力装置204によって選択入力する。すると同一のメーカー・車種タイプ・年式・グレードについて予めROM201に記憶されている基本本体査定価格が決定される。

【0064】現車のボディカラーを選択入力すると、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図11に示す如き外装の現状入力（修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要があるか否か・全塗装歴がある場合の元色全塗装か色替全塗装か、現状事故車か否かの4項目）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。外装の現状入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図12に示す如き加修・補修歴の入力（バンパーの状態、フェンダーの状態、エアロンの状態、ドアの状態等、ルームクリーニングの了未了、シート・ドア内張り・天井・じゅうたんの補修痕の有無）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。加修・補修歴の入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図13に示す如き外装関係の現状入力（バンパーの状態、フェンダーの状態、エアロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態等）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。外装関係の現状入力の入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図14に示す如き内装の現状入力（室内の状況、トランクルームの状況、タバコ・ベットの臭い、ダッシュボードの破損の4項目）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。内装の現状入力の入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図15に示す如き電装品の現状入力（エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ等の使用可否）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。電装品の現状入力の入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図16に示す如き機関・足回りの現状入力（エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。機関・足回りの現状入力の入力を行うと、CPU200が駆動し、ROM201に予め記憶されている図17、図18に示す如き装備品の現状入力（ステレオ・コンボ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキの10項目）を読み出してディスプレイ205に表示して、入力装置204によって必要事項の入力を行う。

## 31

【0065】そして、査定を開始するスイッチである査定ボタン（ディスプレイ205上でも、入力装置204でも可）を入力すると、CPU200が駆動し、RAM202に記憶された諸データに基づいて査定演算を行う。この査定ボタンは、例えば、図19に示す如く、5つのボタンからなり、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定と設定されている。

【0066】このように査定ボタンを押す（例えば、標準査定の①を押す）ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、演算結果が図20に示す如く確定下取り査定額として下取り予定時期における予測査定額がディスプレイ205に表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成8年12月16日）、確定下取り査定額（例えば、¥2,160,510）、有効期限（例えば、平成8年12月30日迄）が同時に表示される。このディスプレイ205に表示される確定下取り査定額に対しては、図21～図25に示す如く、下取り予定時期における現車の査定の詳細をディスプレイ205に表示させる（査定詳細情報の表示）こともできるようになっている。

【0067】走行距離評価は、車には各車種のそれぞれにおいて独自の平均走行距離があり、この平均走行距離に対して現車が少走行であれば車の傷みが少ない筈であるし、平均走行距離に対して現車が過走行であれば車の傷みが多い筈であることから少走行か多走行かによって査定額に差を持たせようとしたものである。

【0068】図27～図47には、本発明に係る中古車の下取り調査定の処理方法及び中古車の下取り調査定の処理装置の他の実施の形態が示されている。本発明に係る中古車の下取り調査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図27～図32には、本発明に係る中古車の下取り調査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートが示されている。図において、ステップ40～ステップ48までの処理は、図1に示すステップ1～ステップ9と同様である。なお、本実施の形態においては、下取り予定時期を平成9年2月に設定してある。

【0069】ステップ48において、外装の現状入力、すなわち修復歴有り、改造車であるか否かについては改造無し、全塗装の必要無し、現状事故車であるという入力を行う。このステップ48において現車の外装の現状を図33に示す如く入力すると、ステップ49において、現車の外装現状において修復歴無しか否かを判定する。ステップ48において現車の外装の現状が修復歴無しではない（修復歴有り）と入力してある場合は、ステップ50において、図34に示す如き修復歴の状況の入力を行う。すなわち、修復歴の入力箇所として、右前（重度）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル

## 32

（OK）、右横（中度）、左横（OK）、トランクフロア（OK）、右後（OK）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）を入力する。右前と右横の中度は、修復の程度を表しており、OKは、修復の無しを表している。ステップ49において現車の外装現状において修復歴有りと判定したにも拘らずステップ50において、図34に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなくなり、暫定査定または査定不可となる。

【0070】ステップ50において現車についての修復歴の状況入力を行うと、ステップ51において、修復歴箇所の入力が行われたか否かを判定する。このステップ51においては、ステップ48において修復歴有りを入力しているため、少なくとも1か所以上の修復歴の入力がなければならず、少なくとも1か所以上の修復歴の入力が行われるのを待つ。

【0071】ステップ51において修復歴箇所の入力が終了したと判定するか、またはステップ49において修復歴無しと判定すると、ステップ52において、現車について現状で事故車でないか否かを判定する。現状で事故車ということは、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。前記ステップ48の外装の現状入力において現車の現状が事故車であると入力してある場合は、ステップ53において、図35に示す如き現車の事故箇所の現状入力を行う。すなわち、ステップ53における事故箇所の入力箇所として、右前（OK）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（OK）、左横（OK）、トランクフロア（重度）、右後（中度）、後面（重度）、左後（中度）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（あり）を入力する。右後と左後の中度、トランクフロアと後面の重度は、事故の程度を表しており、OKは、修復の無しを表している。

【0072】ステップ53において現車についての現状事故箇所の状況入力を行うと、ステップ54において、現状事故箇所の入力を終了したか否かを判定する。このステップ54においては、ステップ52において現状事故車と判定しているため少なくとも1か所以上の現状事故箇所の入力がなければならず、現状事故箇所の入力が行われるのを待つ。このステップ52において現状事故車と判定したにも拘らずステップ53において、図35に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなくなり、暫定査定または査定不可となる。

【0073】ステップ54において現状事故箇所の入力が行われたと判定するか、またはステップ52において現車が現状で事故車でないと判定すると、ステップ55において、図36に示す如き加修・補修歴の入力を行

う。加修・補修歴として、バンパーの状態（無し）、フェンダーの状態（無し）、エアロンの状態（無し）、ドアの状態（無し）、ミラーの状態（無し）、電動ミラーの状態（無し）、ステップの状態（無し）、ボンネットの状態（無し）、ルーフの状態（無し）、トランクの蓋の状態（無し）、トランクの床の状態（無し）、インナーパネル左の状態（無し）、インナーパネル右の状態（無し）、ラジエータセルの状態（無し）、ルームクリーニング（済み）、シートの補修痕（無し）、ドア内張りの補修痕（無し）、天井の補修痕（無し）、じゅうたんの補修痕（無し）を入力する。各項目に対しては、加修・補修歴がある場合には、軽度の傷、重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換歴が有りのいずれかの損傷の程度を入力する。これら加修・補修歴の入力項目は、評価無し（加修・補修歴無し）以外は、いずれも加修・補修歴における損傷の程度によって査定上マイナス要因になり得るものである。

【0074】ステップ55において加修・補修歴の入力を行うと、ステップ56において、図36に示す如き加修・補修歴の入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ56において図36に示す如き加修・補修歴の入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ57において、図37に示す如き外装関係の現状入力を行う。外装関係の現状としてバンパーの状態（リア：×）、フェンダーの状態（右後：×）、エアロンの状態（リア：D）、ドアの状態（異常なし）、ミラーの状態（異常なし）、電動ミラーの状態（異常なし）、ステップの状態（異常なし）、ボンネットの状態（C）、ルーフの状態（異常なし）、トランクの蓋の状態（×）、トランクの床の状態（D）、インナーパネル左の状態（異常なし）、インナーパネル右の状態（異常なし）、ラジエータセルの状態（異常なし）、タイヤの使用の可否（左前後・右前後：異常なし、スベア：無し）、ガラス交換の要否（フロント・左前後ドア・右前後ドア：不要、リア：必要）、ヘッドランプの状態（異常なし）、テール・コンビランプの状態（交換要）を入力する。各項目に対しては、軽度の傷（A）、重度の傷（B）、軽度の凹み（C）、重度の凹み（D）、軽度の腐食（E）、重度の腐食（F）、交換を要する（×）、のいずれかの損傷状態を記号で入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0075】ステップ57において外装関係の現状入力を行うと、ステップ58において、図37に示す如き外装関係の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。ステップ58において、図37に示す如き外装関係の現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ59において、室内の状況に問題ないかの判定を行う。

【0076】ステップ59において室内の状況に問題があると判定すると、ステップ60において、図38に示す如く、室内の状況について、室内の汚れ有り、シートの破損有り、ドア内張の破損無し、天井の破損無し、じゅうたんの破損の無しを入力する。このステップ60において室内の状況の入力が行われると、ステップ61において、室内の状況の問題箇所の入力終了するのを待つ。このステップ61において室内の状況の問題箇所の入力終了したと判定するか、またはステップ59において室内の状況に問題がないと判定すると、ステップ62において、図38に示す如く、トランクルームの状況に問題のあり、室内にタバコ・ベットの臭い（室内の臭い）の問題が有り、ダッシュボードの破損の無しの入力を行う。ステップ62において各種項目の入力が行われると、ステップ63において、トランクルームの状況、タバコ・ベットの臭い、ダッシュボードの破損に関する内装の現状入力がなされたか否かの判定を行い、トランクルームの状況、タバコ・ベットの臭い、ダッシュボードの破損に関する内装の現状入力が完了するのを待つ。このステップ63において内装の現状入力が終了したと判定すると、ステップ64において、図39に示す如き電装品の現状入力を行う。すなわち、電装品の現状として、エアコン（通常の使用可）、バッテリー（通常の使用可）、時計（通常の使用可）、パワーウィンドウ左前（通常の使用可）、パワーウィンドウ左後（通常の使用可）、パワーウィンドウ右前（通常の使用可）、パワーウィンドウ右後（通常の使用可）、ワイパー関係（通常の使用可）、メーターパネル（通常の使用可）を入力する。これら電装品の現状入力項目は、通常の使用が可能以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0077】ステップ64において電装品の現状入力を行うと、ステップ65において、図39に示す如き電装品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ65において図39に示す如き電装品の現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ66において、現車についての機関・足回りの現状の入力を行う。機関・足回りの現状入力は、図40に示す如く、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目について通常に使用できると入力する。

【0078】これら機関・足回りの現状入力項目は、通常の使用が困難な場合は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0079】ステップ66において機関・足回りの現状入力を行うと、ステップ67において、図40に示す如き機関・足回りの現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ67において図40に示す如き機関・足回りの現状入力の全項目に対する入力となされた判定すると、ステップ68におい



## 35

て、現車についての装備品の現状の入力を行う。

【0080】装備品の現状として、図41、図42に示す如く、ステレオ・コンボ・CD（標準・使用可能）、テレビ（無し）、ナビゲーション（無し）、空気清浄機（無し）、アルミホイール（無し）、スポイラー（無し）、エアバック（無し）、4WS（無し）、ABS（無し）、工具、ジャッキ（使用可能）を入力する。なお、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSについては、オプション（OP）で追加装備されていれば査定上プラス要因となる。OP-A、OP-B、OP-Cはそれぞれオプションのグレードを示しており、OP-Aが査定金額が最も高く、OP-B、OP-Cと査定金額は下がっていく。これらオプション装備品についても、使用可能の状態か否かで査定金額は異なる。使用が不可能の状態の場合、オプション装備品を単に取り外すだけでは新車当時の仕様に戻らないような場合は、むしろ査定上マイナス要因となる。工具、ジャッキは、装備されているのが当然で、工具が不足している場合、工具、ジャッキが無い場合は、査定上マイナス要因となる。

【0081】このステップ68において装備品の現状入力を行うと、ステップ69において、図41、図42に示す如き装備品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。

【0082】ステップ69において図41、図42に示す如き装備品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ70において、図43に示す如き各種減額、修理実費の入力を行う。各種減額・修理実費については、査定評価において減額・修理の対象となる評価をした箇所の評価減の金額を入力する。外装関係では、重度の修復歴有りで、-200,000円、さらに重度の現状事故車で、-200,000円である。内装関係では、室内の状況（室内の汚れ・シートの破損）で、-35,000円、トランクルームの破損で、-50,000円、さらに、室内の臭い（タバコ・ベット）で、-25,000円を入力する。その他の項目は、減額の対象となっていないので金額の挿入はしていない。なお、違法改造の場合の違法改造減額（ステップ48において現車が違法改造車であると入力した場合）と全塗装を必要とする場合の減額（ステップ48において現車に全塗装を必要とする場合と入力した場合）については、予め設定されている減額（例えば、違法改造車については一律200,000円の減額、全塗装を必要とする場合は一律200,000円の減額）が表示されるようになっているが、本実施の形態では両方の項目共に減額の対象となっていない。また、外装に関するバンパーの状態、フェンダーの状態、エアロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、

## 36

インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、タイヤの使用の可否、ガラス交換の要否、ヘッドランプの状態、テール・コンビランプの状態についての減額は、状態の程度に応じて予め設定されている減額が表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。

【0083】さらに、電装品に関するエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係については予め設定されている減額が、メーターパネルについては査定時に査定者が入力した減額が、それぞれ表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。また、機関・足回りに関するエンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りについては、査定時に査定者が入力した金額が、減額としてそのまま表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。さらにまた、装備品に関するステレオ・コンボ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキについては、査定時に査定者が入力した金額が、減額としてそのまま表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。

【0084】この各種減額、修理実費の入力に当たっては、本実施の形態においては、ステップ41において修復歴有りと判定したときの重度の修復歴有りに基づく減額200,000円、ステップ49において現状事故車であると判定したときの重度の現状事故車に基づく減額200,000円、ステップ54において室内の状況に問題ありとして例えば室内の汚れ有り及びシートの破損有りとしたときの減額35,000円、ステップ49においてトランクルームの破損による減額50,000円、同じくステップ49において室内の臭いによる減額25,000円を入力する。

【0085】なお、本実施の形態においては評価しなかったが、各種減額、修理実費の中には、テレビを装備した場合の使用可否による増額、ナビゲーションを装備した場合の使用可否による増額、空気清浄機を装備した場合の使用可否による増額、アルミホイールを装備した場合の使用可否による増額、スポイラーを装備した場合の使用可否による増額、エアバックを装備した場合の使用可否による増額、4WSを装備した場合の使用可否による増額、ABSを装備した場合の使用可否によっては増額という評価査定を行えるようにすることもできる。

【0086】ステップ70において各種減額、修理実費の入力を行うと、ステップ71において、現車についての査定額の演算を行う。この演算は、査定ボタンを押して行うが、この査定ボタンは、図19に示す如く、5つのボタンからなり、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定となっている。この査定ボタンは、査定する側の裁量の余地を残し

たもので、交渉の成り行きによって最終査定額の調整を行うようにしたものである。この査定調整範囲は、5% 10%に限らず、7%、15%でも、10%、20%でも自由に設定することができる。

【0087】このように査定ボタンを押す（例えば、標準査定①を押す）ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、ステップ72において、演算結果が確定下取り査定額として下取り予定時期における予測査定額が図44に示す如く表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成8年12月16日）、確定下取り査定額（例えば、¥1,271,118）、有効期限（例えば、平成8年12月30日迄）が同時に表示される。

【0088】ステップ72において演算結果（標準査定）が確定下取り査定額（¥1,271,118）として表示されると、ステップ73において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うか否かの判定を行う。このステップ73において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うと判定すると、ステップ74において、図45～図47の査定詳細情報の表示を行う。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、さらに、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額のそれぞれである。すなわち、外装関係における減額評価は、バンパー（-50,000）、フェンダー（-50,000）、エアロン（-25,000）、ボンネット（-20,000）、トランク（-75,000）、タイヤ（-8,000）、ガラス（-80,000）、テール・コンビランプ（-20,000）、修復歴有り（-200,000）、現状事故車（-200,000）である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、インナーパネル、ヘッドランプ、改造車、全塗装要については、評価0（評価減無し）である。内装関係における減額評価は、室内の状況（-25,000）、トランクルームの破損等（-50,000）、室内の臭い（-25,000）である。その他、ダッシュボードについては、評価0（評価減無し）である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0（評価減無し）である。また、機関・足回りのエンジンの修理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0（評価減無し）である。装備品関係のステレオ・コンボ・C

D、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキは、いずれも評価0（評価減無し）である。

【0089】さらに、現車の総走行距離が4,396Kmで、下取り予定時期（平成9年2月）までの現車の総走行距離は、5,128Kmになると予測され、この現車の総走行距離5,128Kmに対し、下取り予定時期（平成9年2月）における現車の基準走行距離が12,950Kmで、この基準走行距離に対する現車は、7,822Km少走行となり、この7,822Km少走行に対する走行距離評価は、¥86,042となる。また、車検残についての評価額は、車検残が21ヶ月の残で¥147,000となる。この走行距離評価額、車検残の評価額は、査定上プラス要因となっている。したがって、少走行に対する走行距離評価と車検21ヶ月残の評価額を差し引いた額、¥1,038,076が車両本体の評価額となる。

【0090】また、ステップ73において確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行わないと判定すると、ステップ75において、乗換え査定を行うか否かを判定する。このステップ75において、乗換え査定を行わないと判定すると、このフローを終了する。そして、このステップ75において、乗換え査定を行うと判定すると、ステップ76において、当初入力した下取り予定時期（平成9年2月）と異なる乗換予定時期（例えば、平成10年2月）の入力を行う。このステップ76において、下取り予定時期を変更して異なった乗換予定年月（平成10年2月）を入力すると、ステップ77において、図48に示す如き希望乗換時期のシュミレーション査定の表示を行う。この希望乗換時期のシュミレーション査定における平成10年2月の乗換希望時期の予測走行距離は、現車の初年度登録年月日から現在までの総走行距離に基づいて演算して平成10年2月までに走行する距離を予測したもので、平成8年12月現在の総走行距離が4,396Kmの場合、平成9年2月時の予測走行距離が5,128Kmとなり、さらに平成10年2月時の予測走行距離が9,520Kmとなる。この希望乗換時期（平成10年2月）における予測走行距離と年式とから希望乗換時期の下取査定額が¥952,444と予測演算され、当初（平成9年2月）の下取査定額との差が¥318,674ということになる。このステップ77において、希望乗換時期のシュミレーション査定が終了すると、ステップ75に戻り、再度、乗換え査定を行うか否かを判定する。再度の乗換え査定を行わない場合は、このフローを終了する。また、ステップ75において、再度、乗換え査定を行うと判定すると、ステップ76において、一度変更した乗換え査定時期（平成10年2月）と異なる乗換予定時期（例えば、平成10年8月）の入力を行うと、ステップ77において、図49

に示す如き希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行う。すなわち新たな乗換希望時期平成10年8月の予測走行距離は、11,716Kmで、希望乗換時期の下取査定額が¥773,428と予測演算され、平成9年2月の下取査定額との差が¥497,690となる。

【0091】このステップ77において、希望乗換時期のシュミレーション査定が終了すると、ステップ75に戻り、再度、乗換え査定を行うか否かを判定する。再度の乗換え査定を行わない場合は、このフローを終了し、再度、乗換え査定を行う場合は、前記同様の処理が行われる。

【0092】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが持ち込んだ現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、現車のミッション、グレード、ボディーカラーを特定し、下取予定時期を特定することによって下取予定時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、現車の現走行距離データから予測する下取予定時期における走行距離に基づく走行距離実績額と車検の残期間による車検残存期間加算額によって修正して、誰にでも簡単に短時間で適正な下取予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0093】これらの査定内容は、図26に図示のRAM202内に格納することができ、現車の査定実績が記憶される。このようにRAM202内に現車の査定実績を格納することによって、時間(期間)を隔てて再度現車について査定したときに前回の査定内容との比較を行うことができる。

【0094】図50～図63には、本発明に係る中古車の下取予測査定の処理方法及び中古車の下取予測査定の処理装置の別な実施の形態が示されている。本実施の形態における中古車の下取予測査定の処理方法及び中古車の下取予測査定の処理装置は、ある特定の時期に乗り換える予定の場合に、現車の乗換予定時期の下取り額がいくらかになるか予測査定を行い、現車の現在の下取査定額と比較し乗換え時期の参考にしようというものである。本発明に係る中古車の下取予測査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図50～図53には、本発明に係る中古車の下取予測査定の処理方法の実施の形態を示す下取予測査定処理フローチャートが示されている。

【0095】図において、ステップ80～ステップ101までの処理は、図1～図3に示すステップ1～ステップ22と同様である。なお、本実施の形態においては、図54に示す如く、下取予定時期の代えて希望乗換時期を入力するようになっており、この希望乗換時期を平成9年2月に設定してあり、現車走行距離を13,467Kmと設定してある。現車の現在の確定下取り査定額を知りたい場合は、希望乗換時期を平成8年12月に設定することによって求めることができる。

【0096】ステップ101において、図17、図18に示す如き装備品の現状入力全項目に対する入力がないと判定すると、ステップ102において、希望乗換時期の予測下取り査定額の演算を行う。この演算が行われると、ステップ103において、希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行う。希望乗換時期を平成8年12月に設定した場合には、図55に示す如く現車の現在(平成8年12月)における確定下取り査定額が表示される。この希望乗換時期のシュミレーション査定における平成8年12月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、13,467Kmで、基準走行距離11,050Kmより2,417Km多走行となり、走行距離評価額で¥36,255が減額されるが、車検満了年月が平成10年12月で車検が23ヶ月残で、車検残評価額で¥161,000が増額され、平成8年12月現在の下取り査定額は、¥2,051,061となる。また、希望乗換時期を平成9年2月に設定した場合には、図56に示す如く希望乗換時期における現車の予測下取り査定額が表示される。この平成9年2月の希望乗換時期のシュミレーション査定における平成9年2月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、平成8年12月現在の総走行距離13,467Kmを基に予測したもので、平成9年2月における総走行距離は、15,711Kmと推定され、平成9年2月における現車の基準走行距離12,950Kmより2,761Km多走行となり、走行距離評価額で¥41,415が減額されるが、車検満了年月が平成10年12月で車検が21ヶ月残で、車検残評価額¥147,000が増額され、平成9年2月における下取り査定額は、¥1,986,229となる。

【0097】また、図57に示す如く、希望乗換時期を平成10年2月に設定した場合には、図58に示す如く希望乗換時期における現車の予測下取り査定額が表示される。この平成10年2月の希望乗換時期のシュミレーション査定における平成10年2月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、平成8年12月現在の総走行距離13,467Kmを基に予測したもので、29,175Kmと推定され、平成10年2月における現車の基準走行距離24,350Kmより4,825Km多走行となると推定され、走行距離評価額で¥72,375が減額されるが、車検満了年月の平成10年12月で車検が9ヶ月残となっており、車検残評価額で¥63,000が増額され、平成10年2月現在の下取り査定額は、¥1,597,237となる。

【0098】このステップ103において希望乗換時期の予測下取り査定額の表示が行われると、ステップ104において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うか否かを判定する。このステップ104において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステップ105において、希望乗換時期の予測下

41

取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行う。ここで希望乗換時期を平成8年12月（現在）に設定した場合には、対比ができないのでエラーとなる。したがって、この現在の確定下取り査定額との対比は、希望乗換時期が現在（平成8年12月）より未来の年月を設定したときに限られ、図54に示す如く希望乗換時期を平成9年2月に設定した場合には、図59に示す如く、平成8年12月現在の現車の確定下取り査定額と平成9年2月の希望乗換時期における予測下取り査定額との対比を行う。この現車と希望乗換時期の対比においては、平成9年2月における下取り査定額（¥1,986,229）に対し、現車の現在の査定額が、走行距離評価額で¥36,255が減額され、車検残評価額で¥161,000が増額された下取り査定額（¥2,051,061）と示され、その差額が平成9年2月の希望乗換時期より現在の下取り査定額の方が¥64,832も高くなることが表示される。また、図57に示す如く希望乗換時期を平成10年2月に設定した場合には、図60に示す如く、平成8年12月現在の現車の確定下取り査定額と平成10年2月の希望乗換時期における予測下取り査定額との対比を行う。この現車と希望乗換時期の対比においては、平成10年2月における下取り査定額（¥1,597,237）に対し、現車の現在の査定額が、走行距離評価額で¥36,255が減額され、車検残評価額で¥161,000が増額された下取り査定額（¥2,051,061）と示され、その差額が平成10年2月の希望乗換時期より現在の下取り査定額の方が¥453,824も高くなることが表示される。

【0099】ステップ104において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ106において、希望乗換時期の変更を行うか否かを判定する。希望乗換時期の変更は、当初予定した希望乗換時期（平成9年2月）を変更して別な希望乗換時期における予測下取り査定額を行うことである。このステップ106において、希望乗換時期の変更を行わないと判定すると、このフローを終了する。また、ステップ106において、希望乗換時期の変更を行うと判定すると、ステップ107において、当初入力した希望乗換時期（平成9年2月）と異なる乗換予定時期（例えば、平成10年2月）の入力を行う。このステップ107において、希望乗換時期を変更して異なった希望乗換年月を入力すると、ステップ108において、変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額の演算を行う。この演算が行われると、ステップ109において、変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定の表示を行う。希望乗換時期を平成9年2月から平成10年2月に変更した場合には、図58に示す如く現車の平成10年2月の希望乗換時期における予測下取り査定額が表示される。このステップ109において変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額の表示がお

42

こなれると、ステップ110において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うか否かを判定する。このステップ110において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステップ111において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を図60に示す如く行う。

【0100】また、ステップ110において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ112において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うか否かを判定する。このステップ112において変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ106に戻り、変更後の希望乗換時期（平成10年2月）をさらに別な希望乗換時期（例えば、平成10年12月）に変更するか否かを判定する。このステップ106において希望乗換時期の変更を行わないと判定すると、このフローを終了する。また、このステップ106において希望乗換時期の変更を行うと判定するとステップ107～ステップ111までの処理が再度行われ、図61に示す如く再度の変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定の表示を行い、図62に示す如く再度の変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行う。ステップ112において変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステップ113において、図63に示す如く、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行う。この変更後の希望乗換時期と変更前の希望乗換時期の対比においては、変更後の希望乗換時期の平成10年2月における下取り査定額（¥1,597,237）に対し、変更前の希望乗換時期の平成9年2月における下取り査定額（¥1,981,661）が比較され、その差額が平成10年2月の希望乗換時期の予測下取り査定額より平成9年2月の希望乗換時期の予測下取り査定額の方が¥384,424も高くなることが表示される。このステップ113において変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うとフローを終了する。

【0101】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが希望する乗換時期における現車の予測査定額を知りたい場合、現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、現車のミッション、グレード、ボディカラーを特定し、希望乗換時期を特定することによって希望乗換時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価

格を、現車の現走行距離データから予測する希望乗換時期における予測走行距離に基づく走行距離実績額及び車検の残存期間による車検残評価額で修正して、誰にでも簡単に短時間で適正な希望乗換時期における予測査定価格を算出することができ、希望乗換時期を変更した場合における変更後の希望乗換時期における予測査定価格を算出でき、変更前の希望乗換時期における予測査定価格と変更後の希望乗換時期における予測査定価格との比較、希望乗換時期における予測査定価格と現在の確定下取り査定額との比較を行うことができる。

【0102】これらの処理は、図26に図示のRAM202内に格納することができ、現車の希望乗換時期における予測査定実績が記憶される。このようにRAM202内に現車の希望乗換時期における予測査定実績を格納することによって、時間(期間)を隔てて再度現車について査定したときに前回の査定内容との比較を行うことができる。

【0103】図64～図76には、本発明に係る中古車の下取り予測査定の処理方法及び中古車の下取り予測査定の処理装置のさらに別な実施の形態が示されている。本発明に係る中古車の下取り予測査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図64～図69には、本発明に係る中古車の下取り予測査定の処理方法の実施の形態を示す下取り予測査定処理フローチャートが示されている。

【0104】図において、ステップ120～ステップ150までの処理は、図27～図31に示すステップ40～ステップ70と同様である。なお、本実施の形態においては、図70に示す如く、下取り予定時期の代えて希望乗換時期を入力するようになっており、この希望乗換時期を平成9年2月に設定してあり、現車走行距離を13、467Kmと設定してある。現車の現在(平成8年12月)の下取り額を算定するには、希望乗換時期として平成8年12月を入力しておけばよい。

【0105】ステップ150において各種減額、修理実費の入力を行うと、ステップ151において、現車の希望乗換時期における予測下取り査定額の演算を行う。この演算は、査定ボタンを押して行うが、この査定ボタンは、図19に示す如く、5つのボタンによって構成することができ、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定と区別することが可能である。この査定ボタンは、査定する側の裁量の余地を残したもので、交渉の成り行きによって最終査定額の調整を行うようにしたものである。この査定調整範囲は、5%、10%に限らず、7%、15%でも、10%、20%でも自由に設定することができる。

【0106】このように査定ボタンを押す(例えば、標準査定の①を押す)ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、ステップ152において、希望乗換

時期のシュミレーション査定の表示を行う。この希望乗換時期を平成8年12月に設定した場合には、図71に示す如く現車の現在の下取り査定額が表示される。この希望乗換時期のシュミレーション査定における平成8年12月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、13、467Kmで、基準走行距離11、050Kmより2、417Km多走行となり、走行距離評価額で¥36、255が減額されるが、車検満了年月が平成10年12月で車検が23ヶ月残で、車検残評価額で¥161、000が増額され、外装関係における減額評価に、バンパー(-50、000)、フェンダー(-50、000)、エプロン(-25、000)、ボンネット(-20、000)、トランク(-75、000)、タイヤ(-8、000)、ガラス(-80、000)、テール・コンビランプ(-20、000)、修復歴有り(-200、000)、現状事故車(-200、000)があり、内装関係における減額評価に、室内の状況(-25、000)、トランクルームの破損等(-50、000)、室内の臭い(-25、000)がある。これらを総合して平成8年12月現在の下取り査定額は、¥1、243、061となる。また、希望乗換時期を平成9年2月に設定した場合には、図72に示す如く希望乗換時期における現車の予測下取り査定額が表示される。この平成9年2月の希望乗換時期のシュミレーション査定における平成9年2月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、平成8年12月現在の総走行距離13、467Kmを基に予測したもので、平成9年2月における総走行距離は、15、711Kmと推定され、平成9年2月における現車の基準走行距離12、950Kmより2、761Km多走行となり、走行距離評価額で¥41、415が減額されるが、車検満了年月が平成10年12月で車検が21ヶ月残で、車検残評価額¥147、000が増額され、外装関係における減額評価、内装関係における減額評価を総合して平成9年2月における下取り査定額が、¥1、143、661となる。

【0107】このステップ152において希望乗換時期の予測下取り査定額の表示が行われると、ステップ153において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うか否か判定する。このステップ153において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステップ154において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行う。ここで希望乗換時期を平成8年12月(現在)に設定した場合には、対比ができないのでエラーとなる。したがって、この現在の確定下取り査定額との対比は、希望乗換時期が現在(平成8年12月)より未来の年月を設定したときに限られ、図70に示す如く希望乗換時期を平成9年2月に設定した場合には、図73に示す如く、平成8年12月現在の現車の確定下取り査定額と平成9年



2月の希望乗換時期における予測下取り査定額との対比を行う。この現車と希望乗換時期の対比においては、平成9年2月における下取り査定額(¥1,143,661)に対し、現車の現在の査定額が、走行距離評価額で¥36,255が減額され、車検残評価額で¥161,000が増額された下取り査定額(¥1,243,061)と示され、その差額が平成9年2月の希望乗換時期より現在の下取り査定額の方が¥99,400も高くなることが表示される。

【0108】ステップ153において、希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ155において、希望乗換時期の変更を行うか否かを判定する。希望乗換時期の変更は、当初予定した希望乗換時期(平成9年2月)を変更して別な希望乗換時期における予測下取り査定額を行うことである。このステップ155において、希望乗換時期の変更を行わないと判定すると、このフローを終了する。また、ステップ155において、希望乗換時期の変更を行うと判定すると、ステップ156において、当初入力した希望乗換時期(平成9年2月)と異なる乗換予定時期(例えば、平成10年2月)の入力を行う。このステップ156において、希望乗換時期を変更して異なった希望乗換年月(平成10年2月)を入力すると、ステップ157において、変更後の希望乗換時期(平成10年2月)における予測下取り査定額の演算を行う。この演算が行われると、ステップ158において、変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行う。希望乗換時期を平成9年2月から平成10年2月に変更した場合には、図74に示す如く現車の平成10年2月の希望乗換時期における予測下取り査定額が表示される。この平成10年2月の希望乗換時期のシュミレーション査定における平成10年2月の乗換希望時期の現車の総走行距離は、平成8年12月現在の総走行距離13,467Kmを基に予測したもので、平成10年2月における総走行距離は、29,175Kmと推定され、平成10年2月における現車の基準走行距離24,350Kmより4,825Km多走行となり、走行距離評価額で¥72,375が減額されるが、車検満了年月が平成10年12月で車検が9ヶ月残で、車検残評価額¥63,000が増額され、外装関係における減額評価、内装関係における減額評価を総合して平成10年2月における下取り査定額が、¥754,669となる。

【0109】このステップ158において変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額が表示が行われると、ステップ159において、変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うか否かを判定する。このステップ159において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステッ

プ160において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を図75に示す如く行う。

【0110】また、ステップ159において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ161において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うか否かを判定する。このステップ161において変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行わないと判定すると、ステップ155に戻り、変更後の希望乗換時期(平成10年2月)をさらに別な希望乗換時期(例えば、平成10年12月)に変更するか否かを判定する。このステップ155において希望乗換時期の変更を行わないと判定すると、このフローを終了する。また、このステップ155において希望乗換時期の変更を行うと判定するとステップ156～ステップ160までの処理が再度行われ、図76に示す如く再度の変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定を表示を行い、図77に示す如く再度の変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額と現在の確定下取り査定額との対比を行う。

【0111】そして、ステップ161において、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うと判定すると、ステップ162において、図78に示す如く、変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額とを対比し、差額を表示する。この変更後の希望乗換時期と変更前の希望乗換時期の対比においては、変更後の希望乗換時期の平成10年2月における下取り査定額(¥754,669)に対し、変更前の希望乗換時期の平成9年2月における下取り査定額(¥1,143,661)が比較され、その差額が、平成10年2月の希望乗換時期の予測下取り査定額より平成9年2月の希望乗換時期の予測下取り査定額の方が¥388,992も高くなることが表示される。このように、ステップ162において変更後の希望乗換時期の予測下取り査定額と変更前の希望乗換時期の予測下取り査定額との対比を行うとフローを終了する。

【0112】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが希望する乗換時期における現車の予測査定額を知りたい場合、現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、現車のミッション、グレード、ボディカラーを特定し、希望乗換時期を特定することによって希望乗換時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、現車の現走行距離データから予測する希望乗換時期における予測走行距離に基づく走行距離実績額及び車検の残存期間による車検残評価額で修正して、誰にでも簡単に短時間で適正な希望乗換時期における予測査定額

格を算出することができ、希望乗換時期を変更した場合における変更後の希望乗換時期における予測査定価格を算出でき、変更前の希望乗換時期における予測査定価格と変更後の希望乗換時期における予測査定価格との比較、希望乗換時期における予測査定価格と現在の確定下取り査定額との比較を行うことができる。

【0113】これらの処理は、図26に図示のRAM202内に格納することができ、現車の希望乗換時期における予測査定実績が記憶される。このようにRAM202内に現車の希望乗換時期における予測査定実績を格納することによって、時間(期間)を隔てて再度現車について査定したときに前回の査定内容との比較を行うことができる。

【0114】

【発明の効果】本願請求項1に記載の発明によれば、誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0115】本願請求項2に記載の発明によれば、一旦設定した査定予定時期を変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0116】本願請求項3に記載の発明によれば、一旦変更した査定予定時期をさらに変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を変更前の査定予定時期のディーラー査定価格と比較して算出することができる。

【0117】本願請求項4に記載の発明によれば、査定対象車の現在の査定価格と査定対象車の希望乗換時期の査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0118】本願請求項5に記載の発明によれば、一旦設定した希望乗換時期から別な希望乗換時期を特定しても、誰にでも簡単に短時間で当初特定した希望乗換時期の査定価格と変更後の希望乗換時期の査定価格とを比較し、当初特定した希望乗換時期に乗換えるのが得策か、変更後に特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0119】本願請求項6に記載の発明によれば、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0120】本願請求項7に記載の発明によれば、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0121】本願請求項8に記載の発明によれば、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0122】本願請求項9に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0123】本願請求項10に記載の発明によれば、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況に応じた適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0124】本願請求項11に記載の発明によれば、外装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0125】本願請求項12に記載の発明によれば、内装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0126】本願請求項13に記載の発明によれば、電装品の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0127】本願請求項14に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0128】本願請求項15に記載の発明によれば、誰にでも簡単に短時間で適正な査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0129】本願請求項16に記載の発明によれば、一旦設定した査定予定時期を変更しても、誰にでも簡単に短時間で適正な変更後の査定予定時期のディーラー査定価格を算出することができる。

【0130】本願請求項17に記載の発明によれば、査定対象車の現在の査定価格と査定対象車の希望乗換時期の査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0131】本願請求項18に記載の発明によれば、一旦設定した希望乗換時期から別な希望乗換時期を特定しても、誰にでも簡単に短時間で当初特定した希望乗換時期の査定価格と変更後の希望乗換時期の査定価格とを比較し、当初特定した希望乗換時期に乗換えるのが得策か、変更後に特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにすることができる。

【0132】本願請求項19に記載の発明によれば、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した希望乗換時期を特定することによって査定対象車の希望乗換時期の基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の現走行距離データから予測する希望乗換時期における走行距離に基づく走行距離実績額で修正した査定対象車の希望乗換時期の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味して求めた査定価格とを比較し誰にでも簡単に短時間で現在乗換えるのが得策か、特定した乗換時期に乗換えるのが得策かを容易に判断できるようにでき

る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図2】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図3】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図4】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。 10

【図5】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図6】顧客情報の入力と車種タイプの選定表示図である。

【図7】図6において選定した車種タイプのモデルの選択表示図である。

【図8】グレードを一覧表示した図である。

【図9】現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を表示する図である。

【図10】ボディカラーの一覧表示図である。 20

【図11】現車の加修・補修歴の損傷程度を入力するための図である。

【図12】外装の現状を入力するための図である。

【図13】外装関係の現状を入力するための図である。

【図14】内装の現状を入力するための図である。

【図15】電装品の現状を入力するための図である。

【図16】機関・足回りの現状を入力するための図である。

【図17】装備品の現状を入力するための図である。

【図18】装備品の現状を入力するための図である。 30

【図19】査定ボタンを示す図である。

【図20】確定下取り査定額を表示する図である。

【図21】査定詳細情報を表示した図である。

【図22】査定詳細情報を表示した図である。

【図23】査定詳細情報を表示した図である。

【図24】希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図25】希望乗換時期を変更したときの希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図26】本発明に係る中古車の下取り査定処理装置の一実施の形態を示す基本ブロック図である。 40

【図27】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図28】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図29】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図30】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図31】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図32】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図33】外装の現状を入力した図である。

【図34】修復歴の状況を入力するための図である。

【図35】現車の事故箇所の現状を入力するための図である。

【図36】現車の加修・補修歴の損傷程度を入力するための図である。

【図37】外装関係の現状を入力した図である。

【図38】内装の現状を入力した図である。

【図39】電装品の現状を入力した図である。

【図40】機関・足回りの現状を入力した図である。

【図41】装備品の現状を入力した図である。

【図42】装備品の現状を入力した図である。

【図43】各種減額、修理実費を入力するための図である。

【図44】確定下取り査定額を表示した図である。

【図45】査定詳細情報を表示した図である。

【図46】査定詳細情報を表示した図である。

【図47】査定詳細情報を表示した図である。

【図48】当初乗換を希望した希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図49】当初の乗換えを希望した希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図50】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図51】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図52】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図53】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図54】顧客情報の入力と車種タイプの選定表示図である。

【図55】図54に示す車種タイプについての希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

50 【図56】図54に示す車種タイプについての希望乗換

時期を変更したときの変更後の希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図57】顧客情報の入力と車種タイプの選定表示図である。

【図58】図57に示す車種タイプについての希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図59】図52に示す車種タイプの希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図60】図57に示す車種タイプの希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図61】図57に示す車種タイプについて希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図62】図61に示す車種タイプについて希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図63】図54に示す車種タイプについての希望乗換時期を変更した場合の変更前の希望乗換時期における予測下取り査定額と変更後の希望乗換時期における予測下取り査定額とを対比した図である。

【図64】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図65】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図66】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図67】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図68】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図69】本発明に係る中古車の下取り査定処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートであ

る。

【図70】顧客情報の入力と車種タイプの選択状態を表示した図である。

【図71】現車を現在の時期に乗換えを希望する場合の希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図72】現車についての希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図73】図72に示す希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図74】図72に示す希望乗換時期から更に希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

【図75】図74に示す希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図76】図74に示す希望乗換時期から更に希望乗換時期を変更したときの変更後の希望乗換時期における希望乗換時期のシュミレーション査定を示す図である。

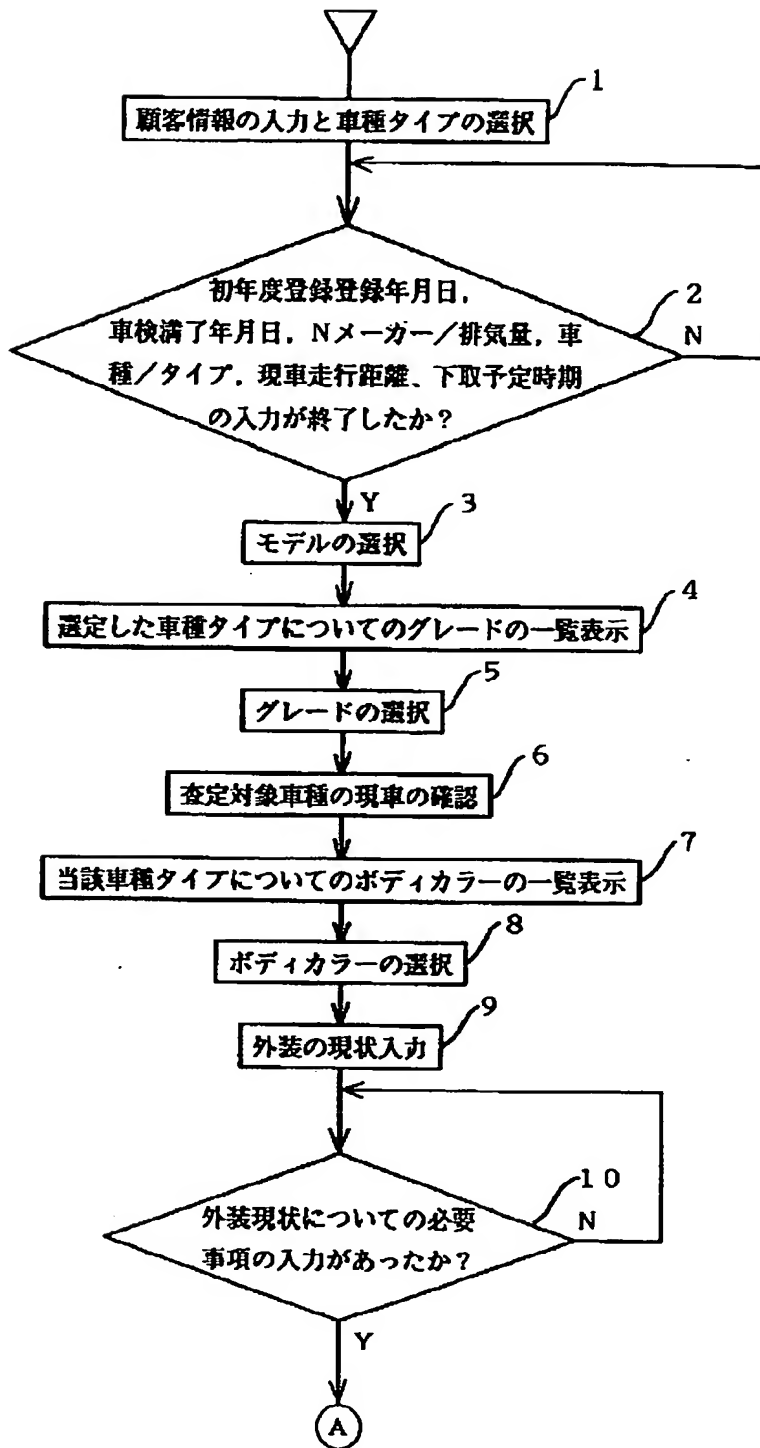
【図77】図76に示す希望乗換時期における予測下取り査定額と現車の現在の確定下取り査定額とを対比した図である。

【図78】図72に示す希望乗換時期に変更したときの予測下取り査定額と図74に示す希望乗換時期に変更したときの予測下取り査定額とを対比した図である。

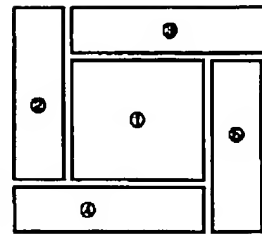
【符号の説明】

200	.....C
PU	
201	.....R
OM	
202	.....R
AM	
203	.....I
/O	
204	.....入力
装置	
205	.....ディス
レー	
206	.....バス
イン	

【図1】

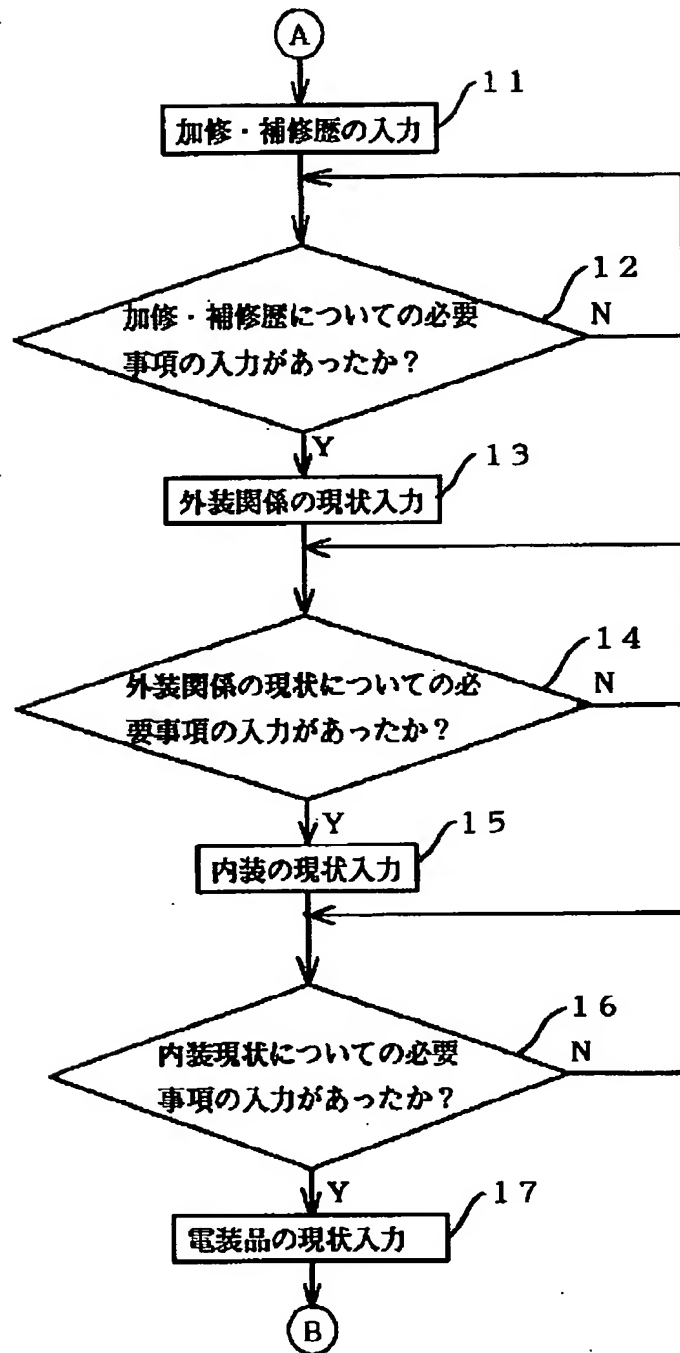


【図19】

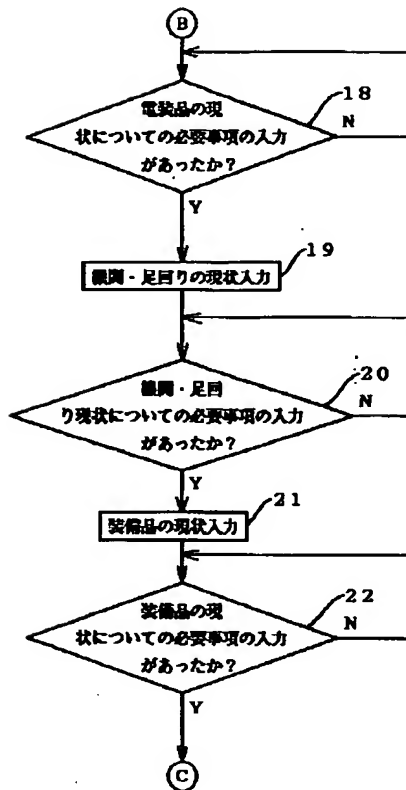




【図2】



【図3】



【図6】

顧客情報の入力と車種タイプの選択		
顧客名	日本 太郎 様 (ニホンタロウ)	
顧客住所/電話	東京都港区広尾1-3-25 (03)3897-2485	
初年度登録年月日	平成 7 年 12 月 8 日	
登録番号	群馬 - 33 - 国 - 8304	
車検完了年月日	平成 10 年 12 月 7 日	
車台番号	88888	
メーカー/排気量	トヨタ 3000 cc	
車種/タイプ	クラウン セダン	
ミッション	●オートマ ○マニュアル	
A/C有無	●有り ○無し	
S/R有無	○有り ●無し	
メーター状況	●正常 ○交換願有 ○交換願無	
走行走行距離	4396 Km	
査定区分	●本査定 ○暫定査定	
下取予定時期	平成 8 年 12 月	
査定担当者	斎藤士 和正	

【図7】

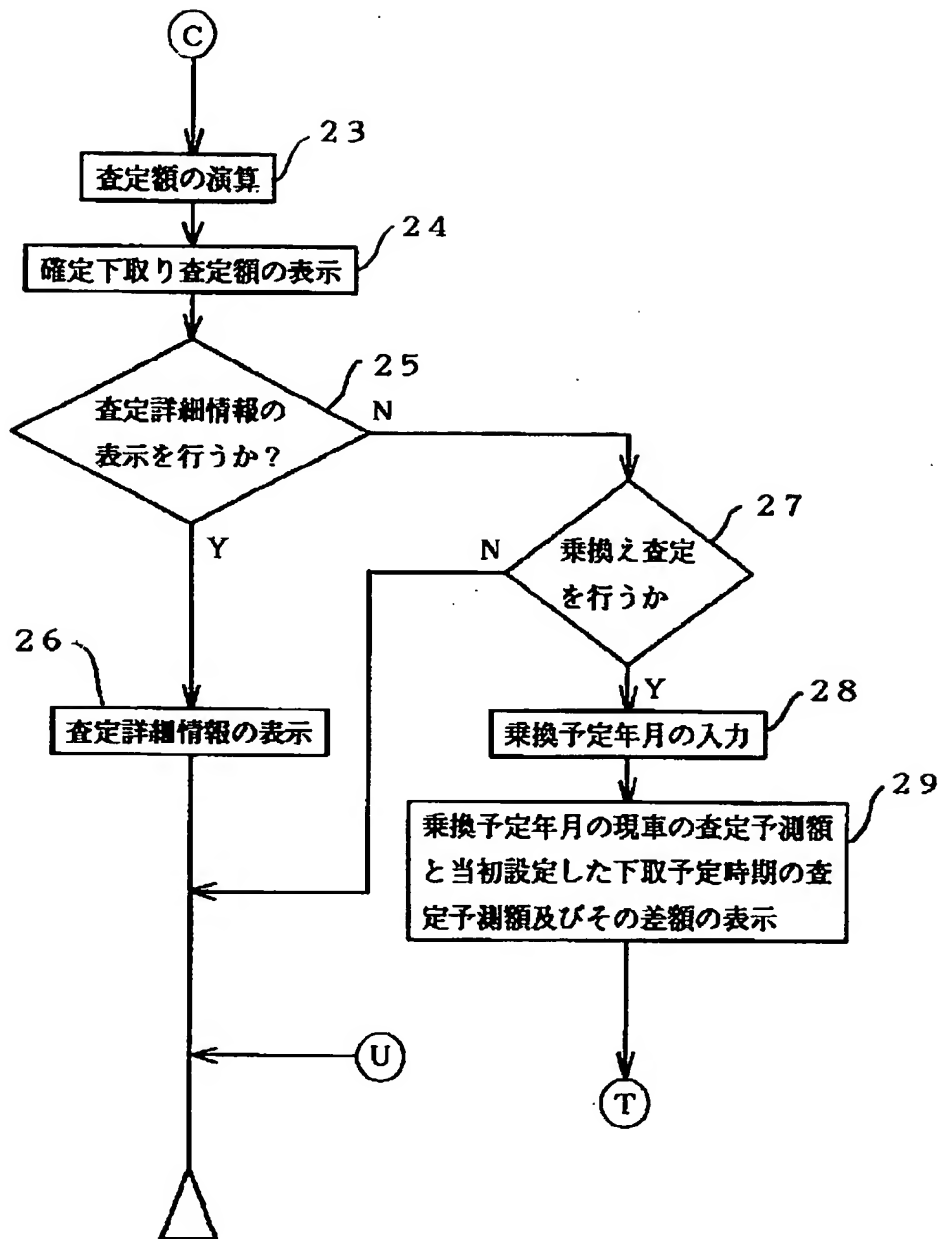
モデルの選択		
トヨタ	クラウン	セダン
発売期間		
<input type="checkbox"/>	平成 7 年 12 月 ~ 平成 7 年 12 月 フルモデルチェンジ	
<input type="checkbox"/>	平成 7 年 1 月 ~ 平成 7 年 11 月	

指定された車種以上位の旧モデルがチェンジされています。  
旧モデルか新モデルかの選択をして下さい。

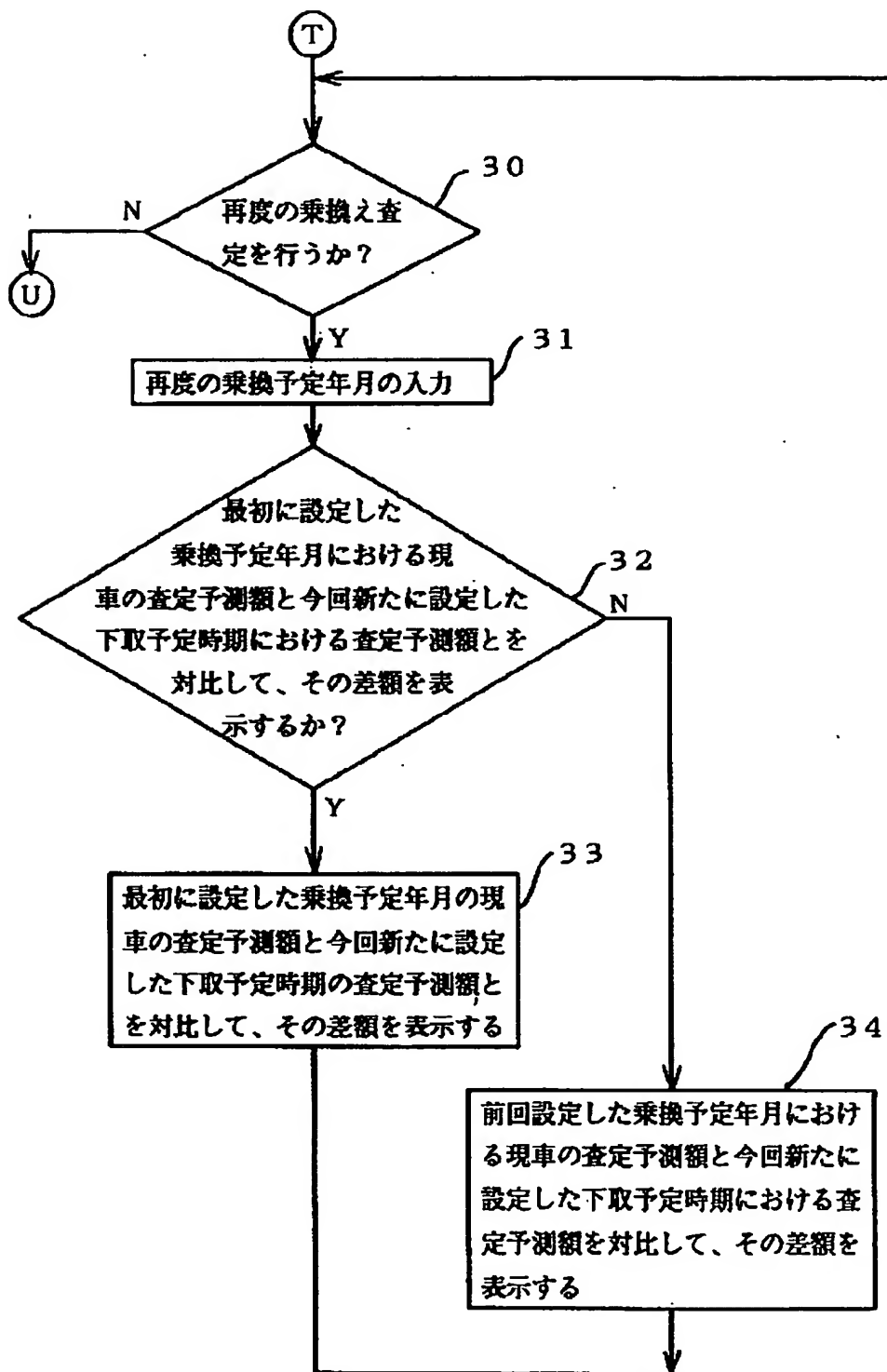
【図15】

電装品の現状入力	
エアコン	●通常の使用可 ○通常の使用不可
バッテリー	●通常の使用可 ○交換が必要
時計	●通常の使用可 ○交換が必要
パワーウィンドウ左前	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ左後	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ右前	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ右後	●通常の使用可 ○作動不可修理要
ワイパー関係	●通常の使用可 ○交換が必要
メーカーパネル	●通常の使用可 ○通常の使用不可

【図4】



【図5】



【図8】

グレードの選択							
トヨタ	クラウン	セダン	発売期間				
			7 年	1 月	～	7 年	11 月
グレード	エンジン	駆動	ドア	定員			
	型 式	装置	過給器	座席形状			
RサルーンG マルチV	3000	DOHC	EFI	2WD	4ドア	5	
	E-JZS135			PS, PW			
RサルーンG	3000	DOHC	EFI	2WD	4ドア	5	
	E-JZS135			PS, PW			
Rサルーン マルチV	3000	DOHC	EFI	2WD	4ドア	5	
	E-JZS135			PS, PW			
Rサルーン	3000	DOHC	EFI	2WD	4ドア	5	
	E-JZS135			PS, PW			

【図9】

現車の確認			
メーカー	トヨタ		
車 種	クラウン	セダン	
発売期間	7 年	1 月	～ 7 年 11 月
排 気 量	3000 cc	グレード	RサルーンG
エンジン種類	DOHC	型 式	E-JZS135
燃料供給装置	EFI	定 員	5 人
過 給 器		ミッション	4A フロア4速オートマチック
駆動装置	2WD	新車価格	4,030,000 円
ド ア 数	4ドア	識別区分	001,002
座席形状			



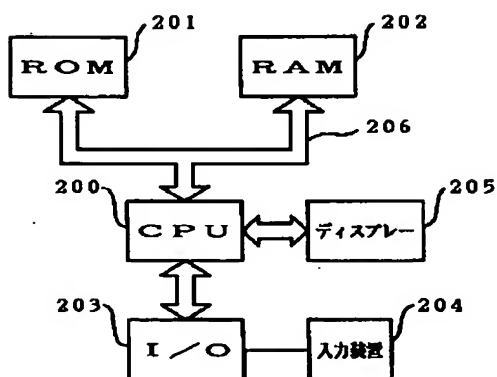
【図10】

ボディカラーの選択		
トヨタ	クラウン	セダン
発売期間		
7 年	1 月	7 年 11 月
正式色名称	イメージカラー	
<input type="checkbox"/> シルバーメトリック	シルバー	銀
<input type="checkbox"/> スーパーホワイトII	ホワイト	白
<input type="checkbox"/> ダークターコイズマイカ	ディープブルー	群青
<input type="checkbox"/> ダークブルーイッシュグレーメトリック	ダークブルーメトリック	靑鉄
<input type="checkbox"/> ダークブルーマイカフタロシアン	ダークブルー	紺
<input type="checkbox"/> ブラック	ブラック	黒

【図11】

外装の現状入力	
修復歴	<input type="radio"/> 修復歴無し <input type="radio"/> 修復歴有り
改造車	<input type="radio"/> 改造無し <input type="radio"/> ドレスアップ改造 <input type="radio"/> 違法改造
全塗装	<input type="radio"/> 全塗装の必要無し <input type="radio"/> 全塗装歴有り <input type="radio"/> 全塗装の必要有り
	<input type="radio"/> 元色全塗装 <input type="radio"/> 色替全塗装
現状事故車	<input type="radio"/> 事故車ではない <input type="radio"/> 事故車である

【図26】



【図13】

外装関係の現状入力		
バンパー	ドア	ステップ
フロント	左 前	左
リア	左 後	右
フェンダー	右 前	
左 前	右 後	ボンネット
左 後	後 部	ルーフ
右 前	ミラー	トランクの蓋
右 後	左	トランクの床
エプロン	右	
フロント	電動ミラー	インナーパネル左
リア	左	インナーパネル右
	右	ラジエーターセル
タイヤ	ガラスの交換	
左 前	●使用可 ○不可	フロント
左 後	●使用可 ○不可	左前ドア
右 前	●使用可 ○不可	左後ドア
右 後	●使用可 ○不可	右前ドア
スベア	●有り ○無し	右後ドア
		リア
ヘッドランプ	●OK ○破交換要 ○交換要	
テール・コンビランプ	●OK ○破交換要 ○交換要	

【図12】

加修・補修歴の入力		
バンパー	ドア	ステップ
フロント	左 前	左
リア	左 後	右
フェンダー	右 前	
左 前	右 後	ボンネット
左 後	後 部	ルーフ
右 前	ミラー	トランクの蓋
右 後	左	トランクの床
エプロン	右	
フロント	電動ミラー	インナーパネル左
リア	左	インナーパネル右
	右	ラジエーターセル
ルームクリーニング	●済み	○まだ
シートの補修歴	●無し	○有り
ドア内張りの補修歴	●無し	○有り
天井の補修歴	●無し	○有り
じゅうたんの補修歴	●無し	○有り

【図16】

機関・足回りの現状入力	
エンジン	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ミッション	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
動力伝達装置	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ステアリング	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
サスペンション	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ブレーキ	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
マフラー	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
その他の機関・足回り	●通常に使用できる ○通常の使用が困難

【図14】

内装の現状入力	
室内の状況	●問題なし ○問題あり
室内の汚れ	○無し ○有り
シートの破損	○無し ○有り
ドア内張の破損	○無し ○有り
天井の破損	○無し ○有り
じゅうたんの破損	○無し ○有り
トランクルームの状況	●問題なし ○問題あり
タバコ・ペットの臭い	●問題なし ○問題あり
ダッシュボードの破損	●問題なし ○問題あり

【図17】

装備品の現状入力	
ステレオ・コンボ・CD	テレビ
●標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可
ナビゲーション	空気清浄機
○標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可
アルミホイール	スポイラー
○標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可

【図18】

エアバック		4 W S	
○標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可	○標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可
A B S		工具、ジャッキ	
○標準 ○DP-A ○DP-B ○DP-C ●無し	●使用可能 ○使用不可	●使用可能 ○使用不可	

【図20】

確定下取り査定額の表示		
顧客名	日本 太郎 様	
メーカー	トヨタ	
車種/タイプ	クラウン	セダン
グレード	RサルーンG	
排気量	3000 CC	
ボディカラー	シルバーメタリック	
初年度登録日	7 年 12 月 8 日	
登録番号	群馬 - 39 - 42 - 8304	
車台番号	88888	
車検満了日	10 年 12 月 7 日	
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353
査定担当者	道祖土 和正	
査定日付	8 年 12 月 16 日	
確定下取り査定額	¥2,160,510	
有効期限	8 年 12 月 30 日迄	

【図33】

外装の現状入力		
修復歴	○修復歴無し ●修復歴有り	
改造車	●改造無し ○ドレスアップ改造 ○違法改造	
全塗装	●全塗装の必要無し ○全塗装歴有り ○全塗装の必要有り	
	○元色全塗装 ○色替全塗装	
現状事故車	○事故車ではない ●事故車である	

【図39】

電装品の現状入力	
エアコン	●通常の使用可 ○通常の使用不可
バッテリー	●通常の使用可 ○交換が必要
時計	●通常の使用可 ○交換が必要
パワーウィンドウ左前	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ左後	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ右前	●通常の使用可 ○作動不可修理要
パワーウィンドウ右後	●通常の使用可 ○作動不可修理要
ワイパー両側	●通常の使用可 ○交換が必要
メーカーパネル	●通常の使用可 ○通常の使用不可

【図21】

査定詳細情報の表示				
外 装	バンパー	<input type="checkbox"/>	タイヤ	<input type="checkbox"/>
	フェンダー	<input type="checkbox"/>	ガラス	<input type="checkbox"/>
	エプロン	<input type="checkbox"/>	インターパネル	<input type="checkbox"/>
	ドア	<input type="checkbox"/>	ラジエタセル	<input type="checkbox"/>
	ミラー	<input type="checkbox"/>	ヘッドランプ	<input type="checkbox"/>
	電動ミラー	<input type="checkbox"/>	ホックアップ	<input type="checkbox"/>
	ステップ	<input type="checkbox"/>	修復済み	<input type="checkbox"/>
	ボンネット	<input type="checkbox"/>	改造車	<input type="checkbox"/>
	ルーフ	<input type="checkbox"/>	全壊放棄	<input type="checkbox"/>
	トランク	<input type="checkbox"/>	現状事故車	<input type="checkbox"/>
内 装	室内の状況	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	トランクルームの破損等	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	室内の臭い	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	ダッシュボード	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

【図22】

電 装	エアコン	<input type="checkbox"/>
	バッテリー	<input type="checkbox"/>
	時計	<input type="checkbox"/>
	パワーウィンドウ	<input type="checkbox"/>
	ワイパー関係	<input type="checkbox"/>
	メーターパネル	<input type="checkbox"/>

機 関 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	<input type="checkbox"/>
	ミッションの修理等	<input type="checkbox"/>
	動力伝達装置の修理等	<input type="checkbox"/>
	ステアリングの修理等	<input type="checkbox"/>
	サスペンションの交換	<input type="checkbox"/>
	ブレーキの修理等	<input type="checkbox"/>
	マフラーの修理等	<input type="checkbox"/>
その他の機関の修理等	<input type="checkbox"/>	

【図37】

外装関係の現状入力			
バンパー	ドア	ステップ	
フロント	左前	左	
リア	左後	右	
フェンダー	右前	ボンネット	C
左前	右後	ルーフ	
左後	後部	トランクの蓋	X
右前	ミラー	トランクの床	D
右後	左		
エプロン	右		
フロント	電動ミラー	インターパネル左	
リア	左	インターパネル右	
	右	ラジエタセル	
タイヤ	ガラスの交換		
左前	●使用可 ○不可	フロント	●不要 ○必要
左後	●使用可 ○不可	左前ドア	●不要 ○必要
右前	●使用可 ○不可	左後ドア	●不要 ○必要
右後	●使用可 ○不可	右前ドア	●不要 ○必要
スベア	○有り ●無し	右後ドア	●不要 ○必要
		リア	○不要 ●必要
ヘッドランプ	●OK ○壊交換 ○交換要		
テール・コンビランプ	●OK ○壊交換 ●交換要		

【図40】

機関・足回りの現状入力	
エンジン	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ミッション	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
動力伝達装置	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ステアリング	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
サスペンション	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
ブレーキ	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
マフラー	●通常に使用できる ○通常の使用が困難
その他の機関・足回り	●通常に使用できる ○通常の使用が困難

【図23】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0
	テレビ	0
	ナビゲーション	0
	空気清浄機	0
	アルミホイール	0
	スポイラー	0
	エアバック	0
	4 W S	0
	A B S	0
工具、ジャッキ	0	

現車走行距離 4,396 Km

基準走行距離 11,050 Km

6,654 Km

少走行です

走行距離評価 ¥73,194

事故歴 23 ヶ月間

161,000

最終下取額

¥2,160,510

【図38】

## 内装の現状入力

室内の状況

○問題なし ●問題あり

室内の汚れ ○無 ●有

シートの破損 ○無 ●有

ドア内張の破損 ●無 ○有

天井の破損 ●無 ○有

ビュウタンの破損 ●無 ○有

トランクルームの状況

○問題なし ●問題あり

タバコ・ペットの臭い

○問題なし ●問題あり

ダッシュボードの破損

●問題なし ○問題あり

【図34】

## 修復歴の現状入力

右前: ○○OK○軽度  
○中度○重度

右後: ○○OK○軽度  
○中度○重度

後面: ○○OK○軽度  
○中度○重度

左後: ○○OK○軽度  
○中度○重度

左前: ○○OK○軽度  
○中度○重度

前面: ○○OK○軽度  
○中度○重度

右側: ○○OK○軽度  
○中度○重度

左側: ○○OK○軽度  
○中度○重度

フロアパネル: ○○OK○軽度  
○中度○重度

トランクフロア: ○○OK○軽度  
○中度○重度

車体: ○○OK  
○軽度  
○中度  
○重度

フレームと第一メンバーの交換、修正 ○あり●なし

事故の無いの有無(車両状態が不明瞭) ○あり●なし

フレーム修正機の使用の有無 ○あり●なし

【图24】

### 希望乗換時期のシュミレーション査定

8 年 12 月現在

下取り査定額は **¥2,160,510** です。

9 年 2 月に製造終了

外空車道方面の現車の走行距離は **5,128 Km**と推定されます。

これらの値を総合的に評価した。希望乗換時期の下取り査定額は

¥2,095,118 と推定されます。

希望乗換時間の下取り並定額は、現在より **¥65,392** も安くなります!!

有様な条件の中、お乗換えをおすすめします！！

★★上記の査定要素は今後、乗換希望年月間で車両の状況に  
大きな変化がないということが条件となっております。  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

【図41】

### 装備品の現状入力

ステレオ・コンボ・CD

●標準	●使用
○DP-A	・可能
○DP-B	
○DP-C	○使用
○無L	不可

テ	レ	ビ
---	---	---

○標準	●使用可能
○OP-A	
○OP-B	
○OP-C	○使用不可
●無し	

## ナビゲーション

○標準	●使用可能
○DP-A	
○DP-B	
○DP-C	○使用不可
●無し	

## 空氣清淨機

○標準	●使用可能
○DP-A	
○DP-B	
○DP-C	○使用不可
●無し	

**アルミホイール**

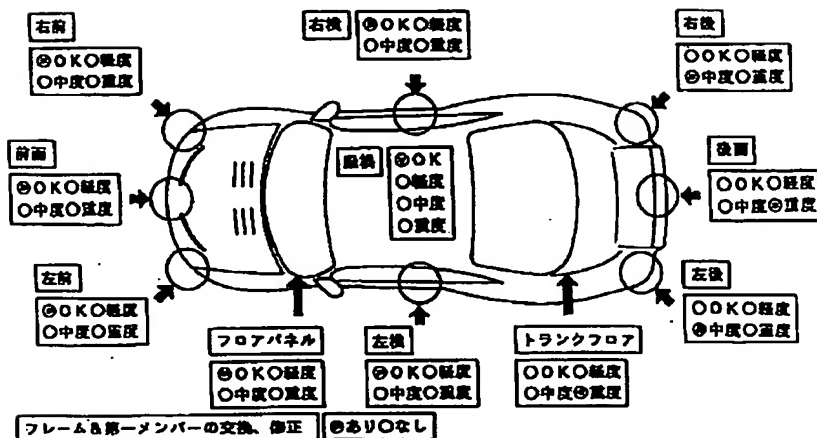
○標準	●使用可能
○DP-A	
○DP-B	
○DP-C	○使用不可
●無し	

ス ポ イ ラ ー

○標準	●使用
○DP-A	可能
○DP-B	
○DP-C	○使用
●無し	不可

【图35】

## 事故箇所の現状入力





【図25】

## 希望乗換時期のシュミレーション決定

9 年 2 月現在

下取り査定額は ¥2,095,118 です。

10 年 2 月に乗換希望

希望乗換時期の現車の走行距離は 9,520 Kmと推定されます。

これらの値を総合的に評価した。希望乗換時期の下取り査定額は

¥1,665,041 と推定されます。

希望乗換時期の下取り査定額は、現在より ¥430,077 も安くなります!!

有利な条件の今、お乗換えをおすすめします!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月間で車両の状況に大きな変化がないということが条件となっております。車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

【図46】

電 装 品	エ ア コ ン	0
	バ ッ テ リ	0
	時 計	0
	パワーウィンドウ	0
	ワイパー関係	0
	メーターパネル	0

機 関 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	0
	ミッションの修理等	0
	動力伝達装置の修理等	0
	ステアリングの修理等	0
	サスペンションの交換	0
	ブレーキの修理等	0
	マフラーの修理等	0
	その他の機関の修理等	0

【図42】

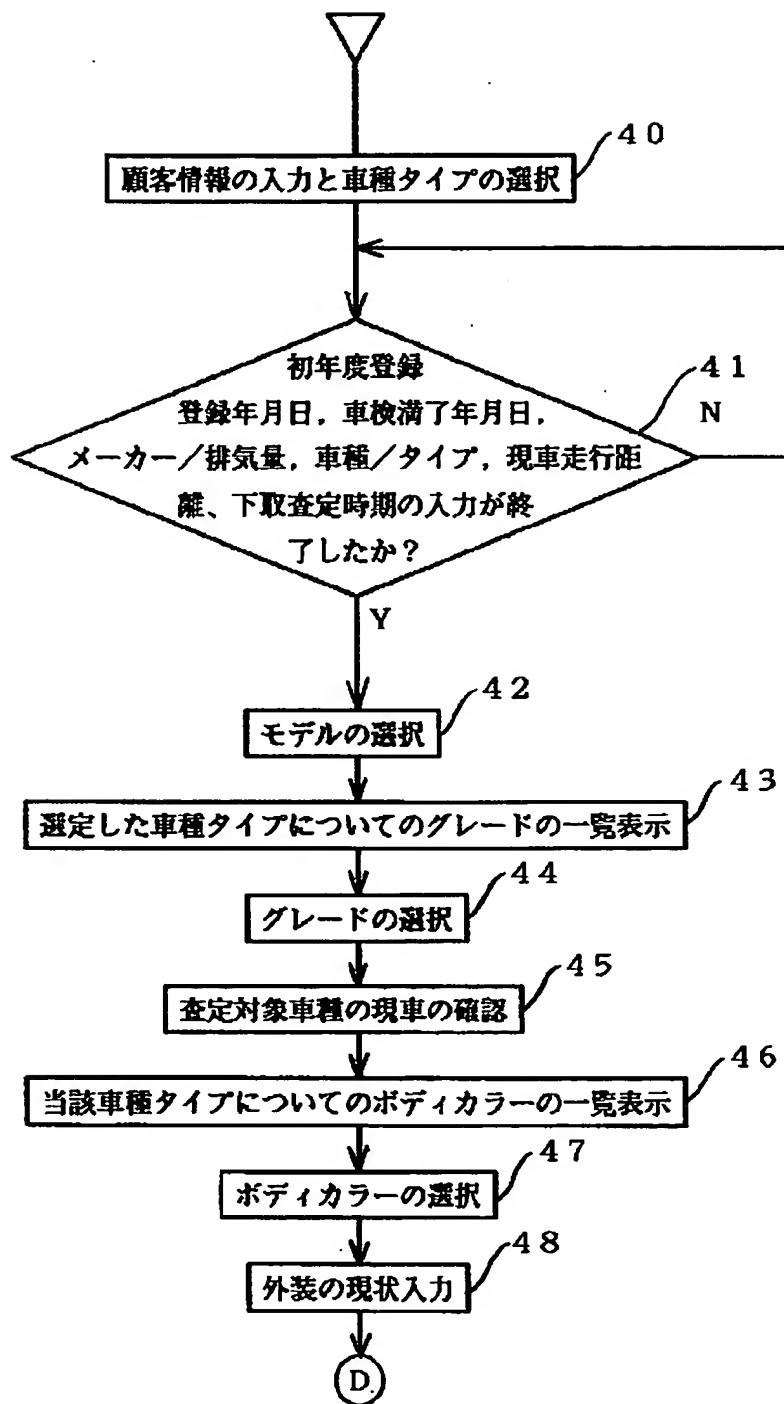
エ ア バ ッ ク		4 W S	
○標準	●使用	○標準	●使用
○DP-A	可能	○DP-A	可能
○DP-B		○DP-B	
○DP-C	○使用	○DP-C	○使用
●無し	不可	●無し	不可
A B S		工具、ジャッキ	
○標準	●使用	● 使用可能 ○ 使用不可	
○DP-A	可能		
○DP-B			
○DP-C	○使用		
●無し	不可		

【図43】

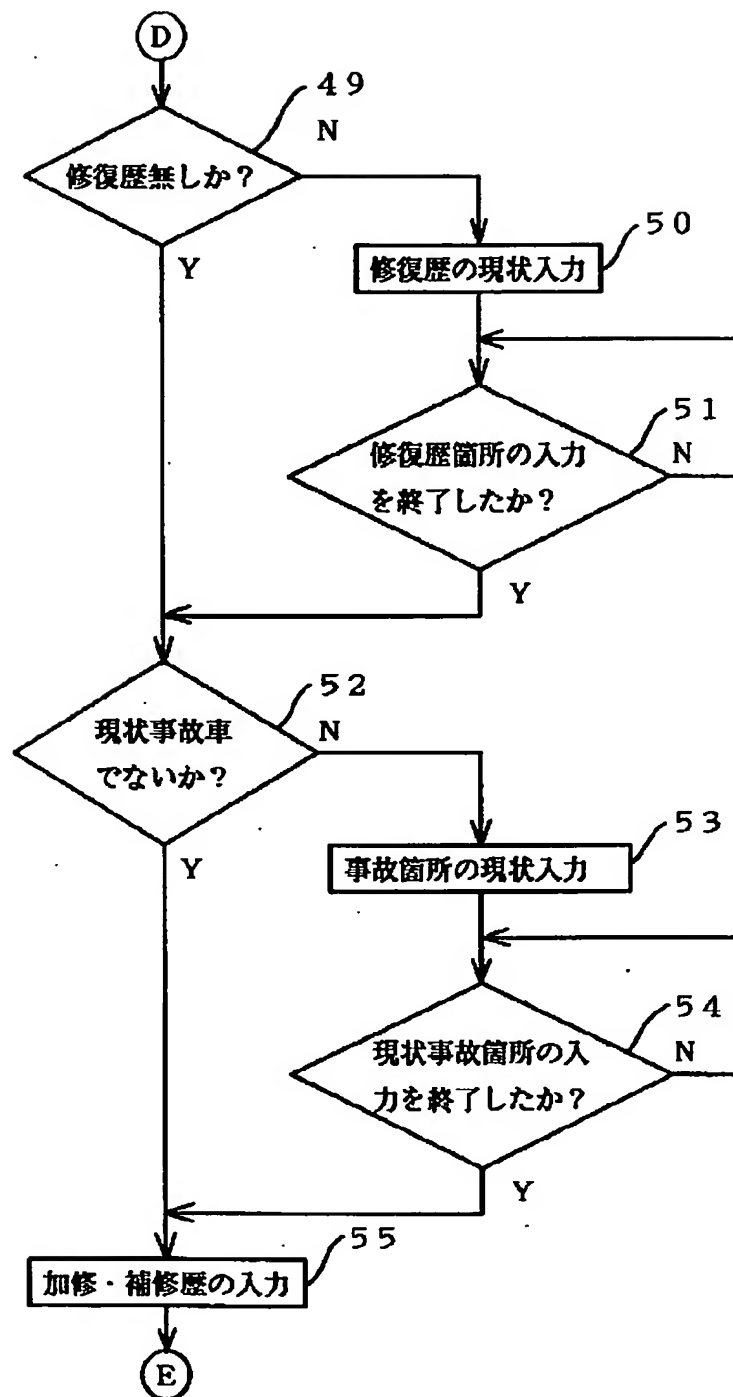
## 各種減額、修理実費の入力

外 装 関 係		電 装 品	
重度の修復歴有り	280000 円	メーターパネル	円
違法改造車	円		
重度の現状事故車	280000 円	装 備 品	
		ステレオ	円
内 装 関 係		テレビ	円
室内の状況	35000 円	ナビゲーション	円
ドアパネルの破損	50000 円	空気清浄機	円
室内の臭い	25000 円	アルミホイール	円
ドアパネルの破損	円	スボイラー	円
		エアバック	円
機関・足回り	円	4 W S	円
エンジン	円	A B S	円
ミッション	円		
動力伝達装置	円	電 装 品	
ステアリング	円	メーターパネル	円
サスペンション	円		
ブレーキ	円		
マフラー	円		
機関・足回り	円		

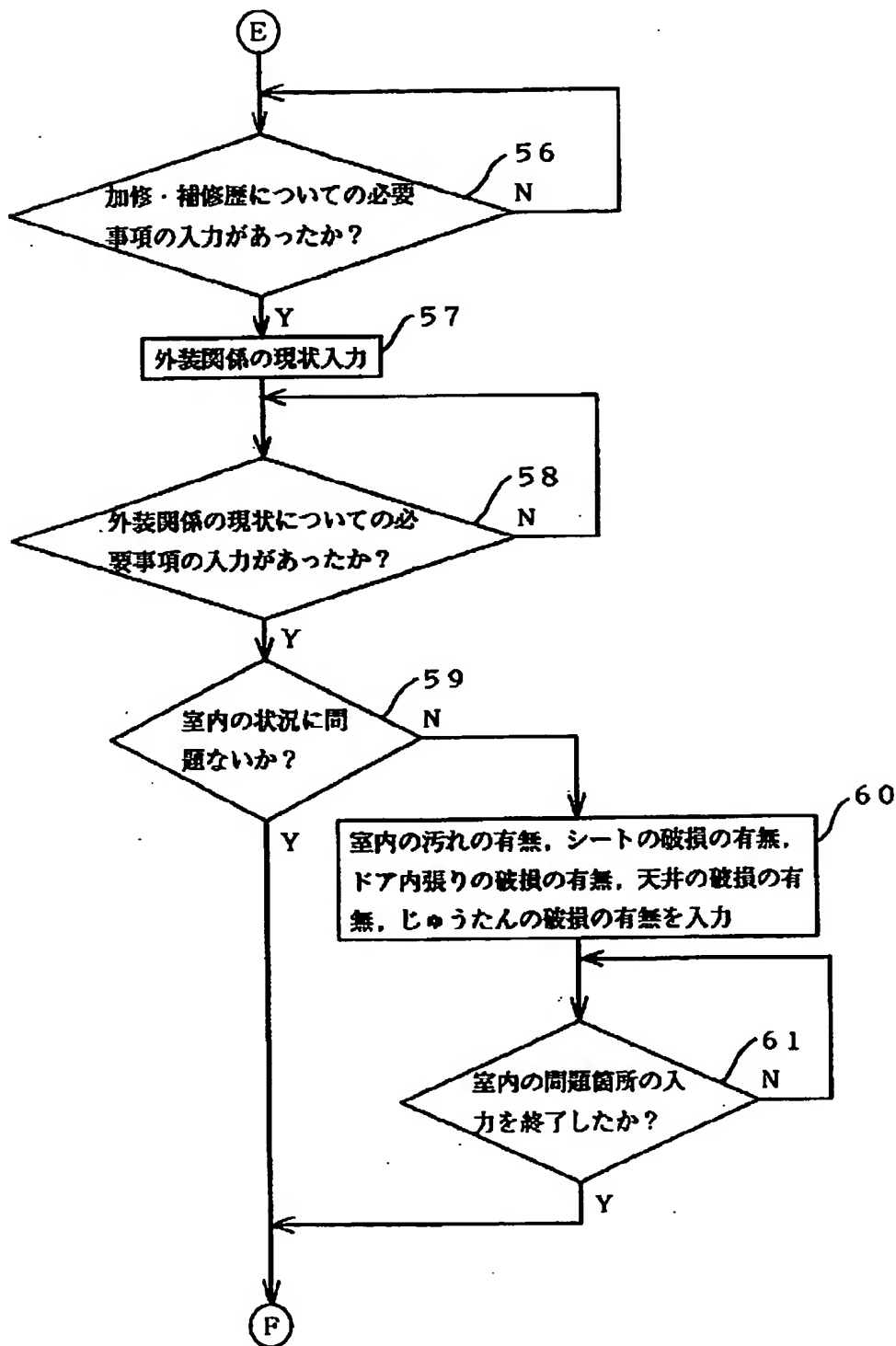
【図27】



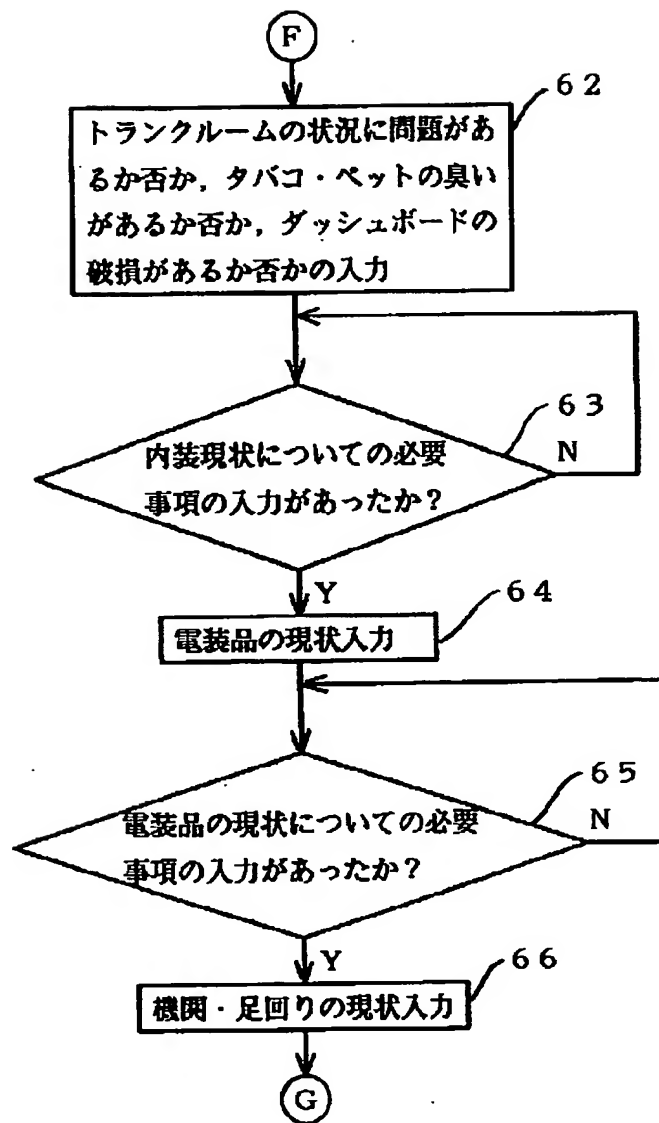
【図28】



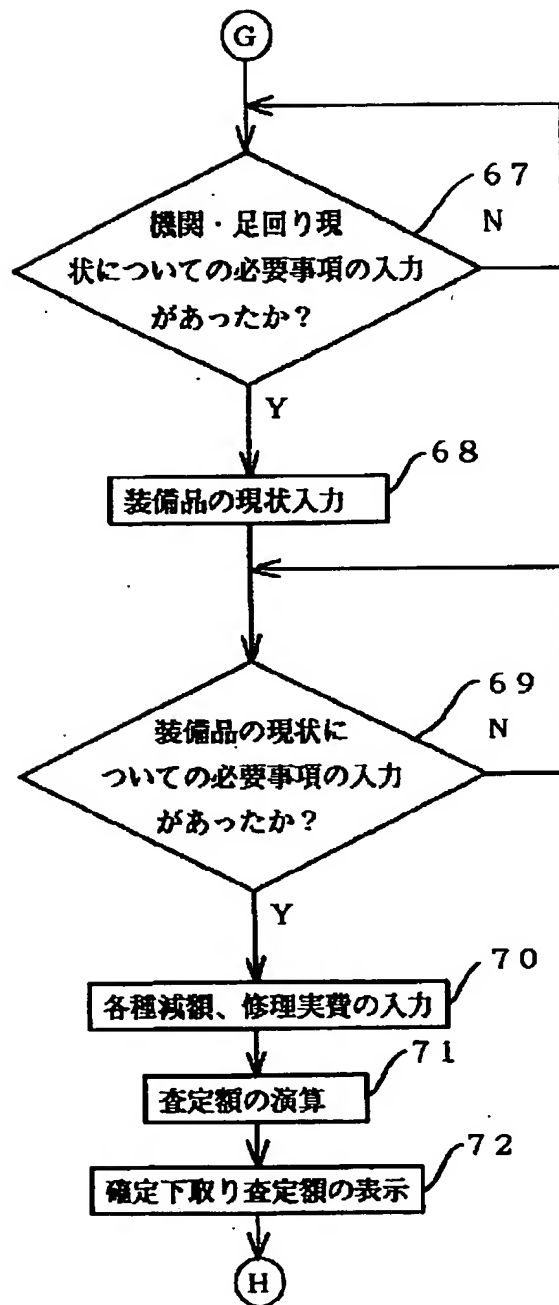
【図29】



【図30】

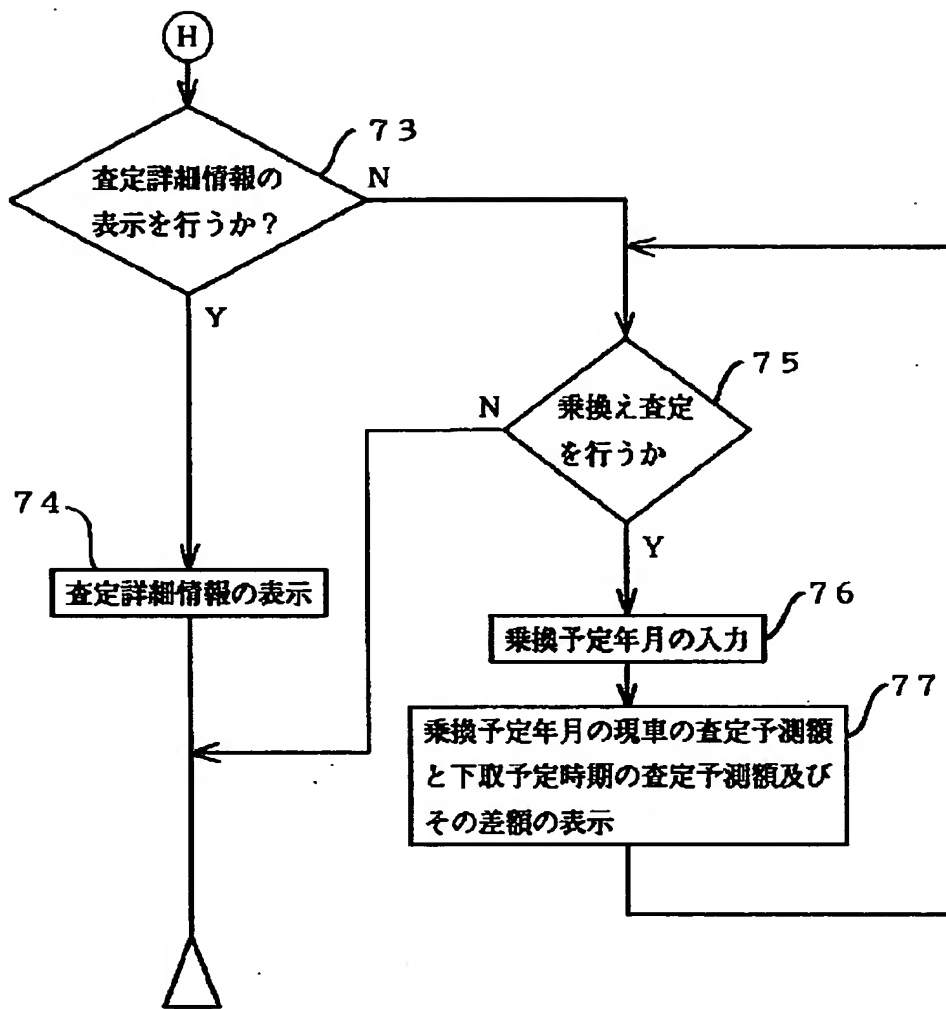


【図31】





【図32】



【図36】

加修・補修歴の入力		
バンパー	ドア	ステップ
フロント	左前	左
リア	左後	右
フェンダー	右前	
左前	右後	ボンネット
左後	後部	ルーフ
右前	ミラー	トランクの型
右後	左	トランクの床
エアロン	右	
フロント	電動ミラー	インナーパネル左
リア	左	インナーパネル右
	右	ラジエーターセル
ルームクリーニング	◎済み	○まだ
シートの補修痕	◎無し	○有り
ドア内張りの補修痕	◎無し	○有り
天井の補修痕	◎無し	○有り
じゅうたんの補修痕	◎無し	○有り

【図45】

査定詳細情報の表示				
外装	バンパー	-50,000	タイヤ	-8,000
	フェンダー	-50,000	ガラス	-80,000
	エアロン	-25,000	インナーパネル	0
	ドア	0	ラジエーターセル	0
	ミラー	0	ヘッドランプ	0
	電動ミラー	0	ドアミラー	-20,000
	ステップ	0	修復歴有り	-200,000
	ボンネット	-20,000	改造車	0
	ルーフ	0	全損強要	0
	トランク	-75,000	現状事故車	-200,000
内装	室内の状況			-35,000
	トランクルームの破損等			-50,000
	室内の臭い			-25,000
	ダッシュボード			0

【図55】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

8 年 12 月現在 日本 太郎 普通のお車  
 トヨタ クラウン セダン RサルーンG は  
 現在の走行距離は 13,467 Kmと推定され、2,417 Km 多走行 と推定されます。  
 走行距離評価額は -¥36,255 となります。  
 車検は 10 年 12 月迄で、23 ヶ月残です。車検残評価額は ¥161,000 となります。

8 年 12 月現在の 下取り査定額は

¥2,051,061 になると推定されます!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
 大きな変化がないと想定した上で算出されています。  
 車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

【図44】

確定下取り査定額の表示			
顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000 CC		
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7 年 12 月 8 日		
登録番号	群馬 - 33 - 区 - 8304		
車台番号	88888		
車検済日	10 年 12 月 7 日		
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3497-8353	
査定担当者	進藤士 敏正		
査定日付	8 年 12 月 16 日		
確定下取り査定額	¥1,271,118		
有効期限	8 年 12 月 30 日迄		

【図56】

希望乗換時期のシュミレーション査定			
9 年	2 月現在	日本 太郎	様のお車
トヨタ	クラウン	セダン	RサルーンG は
現在の走行距離は 15,711 Kmと検定され、2,761 Km 多走行と検定されます。			
走行距離評価額は -¥41,415 となります。			
車検は 10 年 12 月 迄で、21 ヶ月済です。車検残評価額は ¥147,000 となります。			
9 年 2 月 現在の 下取り査定額は			
¥1,981,661 になると検定されます!!			

★★上記の査定額等は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きく変動するといったことは発生いたしません。  
車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

【図47】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0
	テレビ	0
	ナビゲーション	0
	空気清浄機	0
	アルミホイール	0
	スポイラー	0
	エアバック	0
	4 W S	0
	A B S	0
	工具、ジャッキ	0

---

現車走行距離	5,128 Km
基準走行距離	12,950 Km
	7,822 Km 少走行です
走行距離評価	¥86,042

---

車検期	21ヶ月間	147,000
-----	-------	---------

---

最終下取額	¥1,271,118
-------	------------

【図58】

希望乗換時期のシュミレーション査定			
-------------------	--	--	--

10年 2月現在 日本 太郎 様のお車

トヨタ クラウン セダン RサルーンG は

現在の走行距離は 29,175 Kmと査定され、4,825 Km 多走行と査定されます。

走行距離評価額は -¥72,375 となります。

車検は 10年 12月迄で、9ヶ月間です。車検残評価額は ¥63,000 となります。

---

10年 2月現在の 下取り査定額は
-------------------

¥1,597,237 になると査定されます!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きな変化がないという前提条件に基づいております。  
車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

## 【図48】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

9 年 2 月現在

下取り査定額は ¥1,271,118 です。

10 年 2 月に乗換希望

希望乗換時期の現車の走行距離は 9,520 Kmと設定されます。

これらの値を総合的に評価した、希望乗換時期の下取り査定額は

¥952,444 と設定されます。

希望乗換時期の下取り査定額は、現在より ¥318,674 も安くなります!!

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月間で車両の状況に  
大きな変化がないということが条件となっております。  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

## 【図59】

## 現車と希望乗換時期の対比

シュミレートの結果

9 年 2 月現在の、下取り査定額は ¥1,981,661 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Kmで 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23 ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥2,051,061 です。

今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥69,400 も高くなります!!

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月間で車両の状況に  
大きな変化がないということが条件となっております。  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

## 【図49】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

9 年 2 月現在

下取り査定額は ¥1,271,118 です。

10 年 8 月に乗換希望

希望乗換時期の現車の走行距離は 11,716 Kmと推定されます。

これらの値を総合的に評価した、希望乗換時期の下取り査定額は

¥773,428 と推定されます。

希望乗換時期の下取り査定額は、現在より ¥497,690 も安くなります!!

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月間で車両の状況に  
大きな変化がないということが条件となっております。  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

## 【図60】

## 現車と希望乗換時期の対比

シュミレートの結果

10 年 2 月現在の、下取り査定額は ¥1,597,237 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Kmで 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23 ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥2,051,061 です。

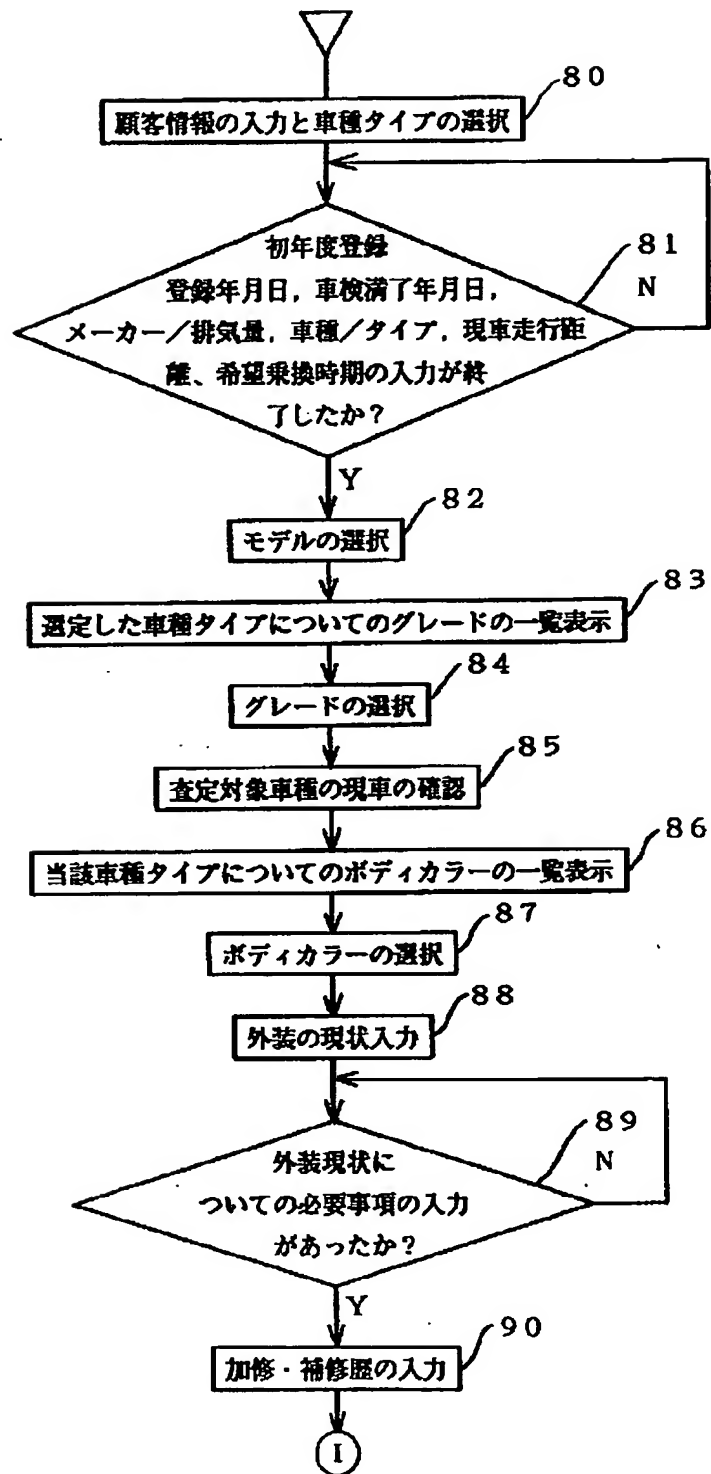
今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥453,824 も高くなります!!

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします!!

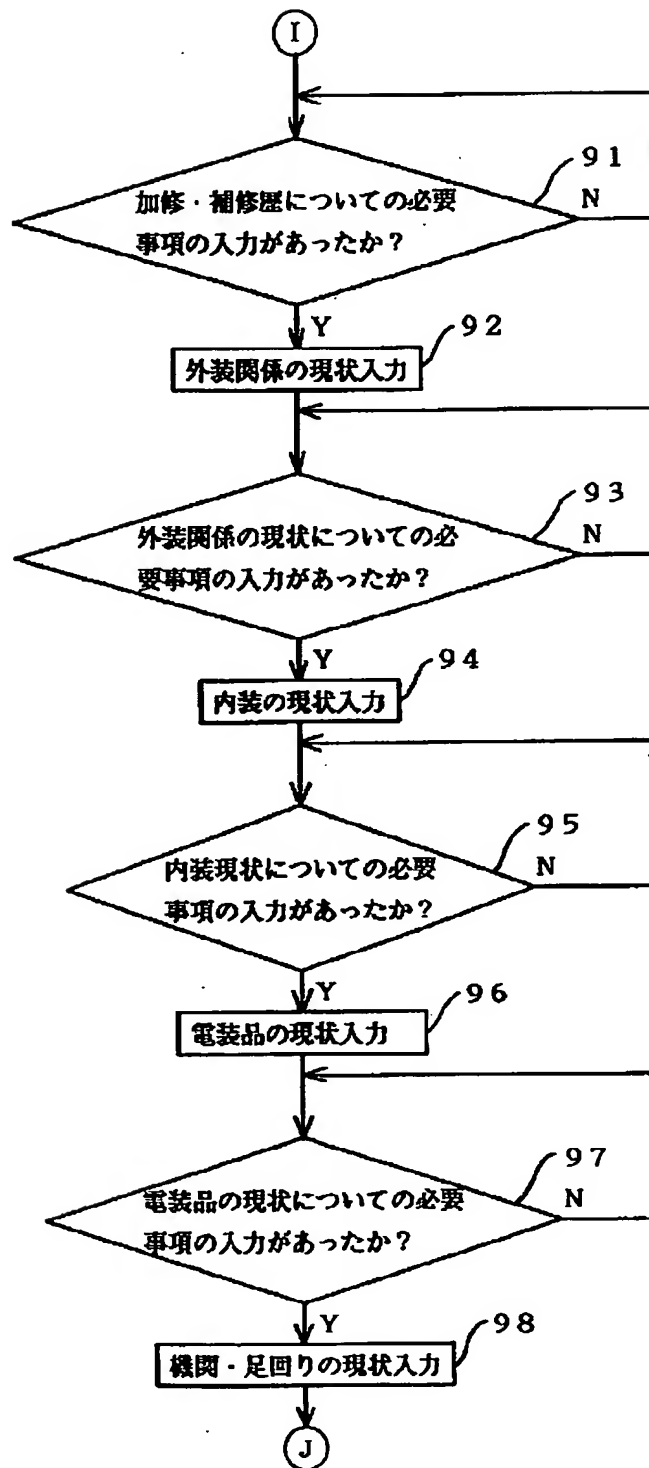
★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きな変化がないということが条件となっております。  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。



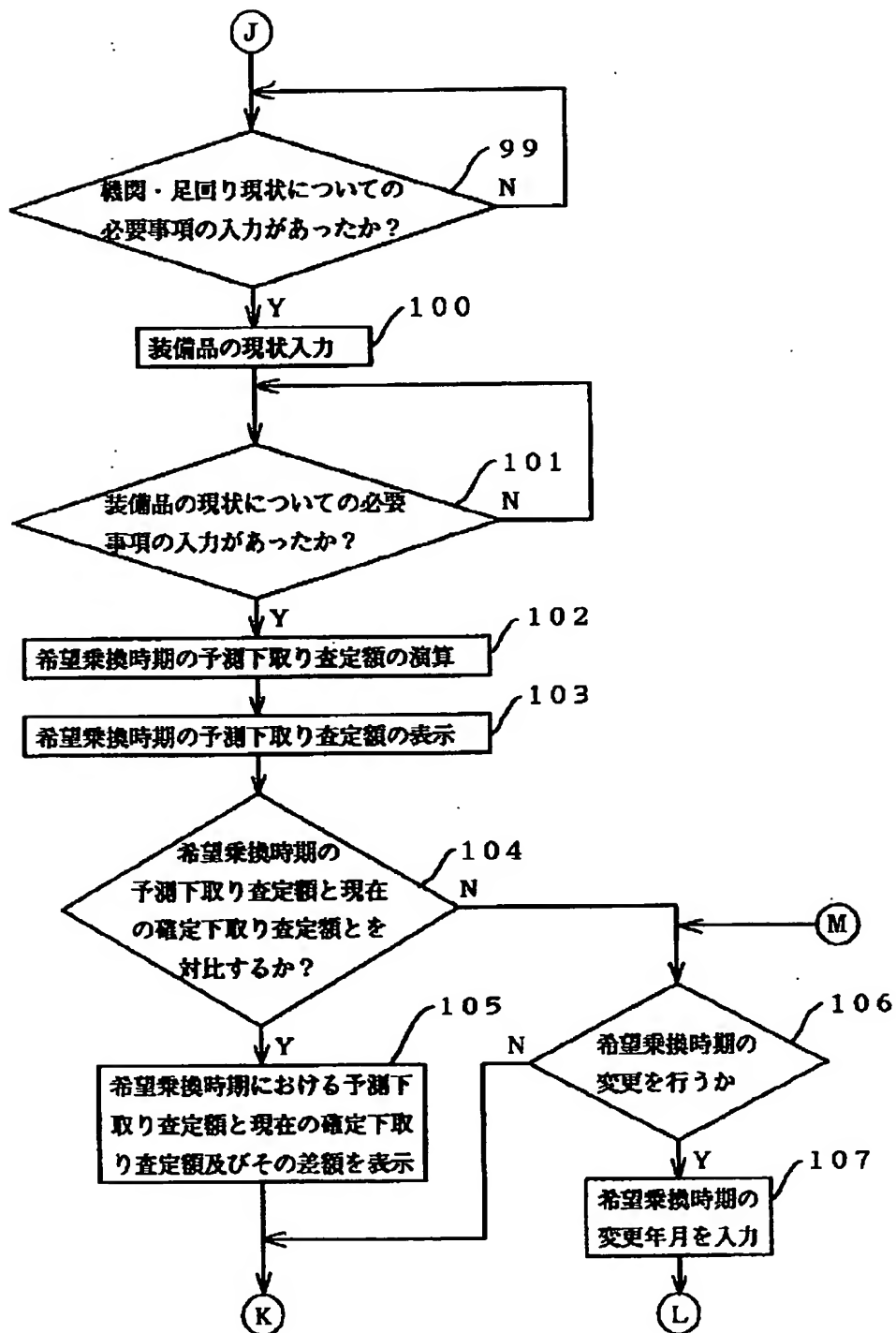
【図50】



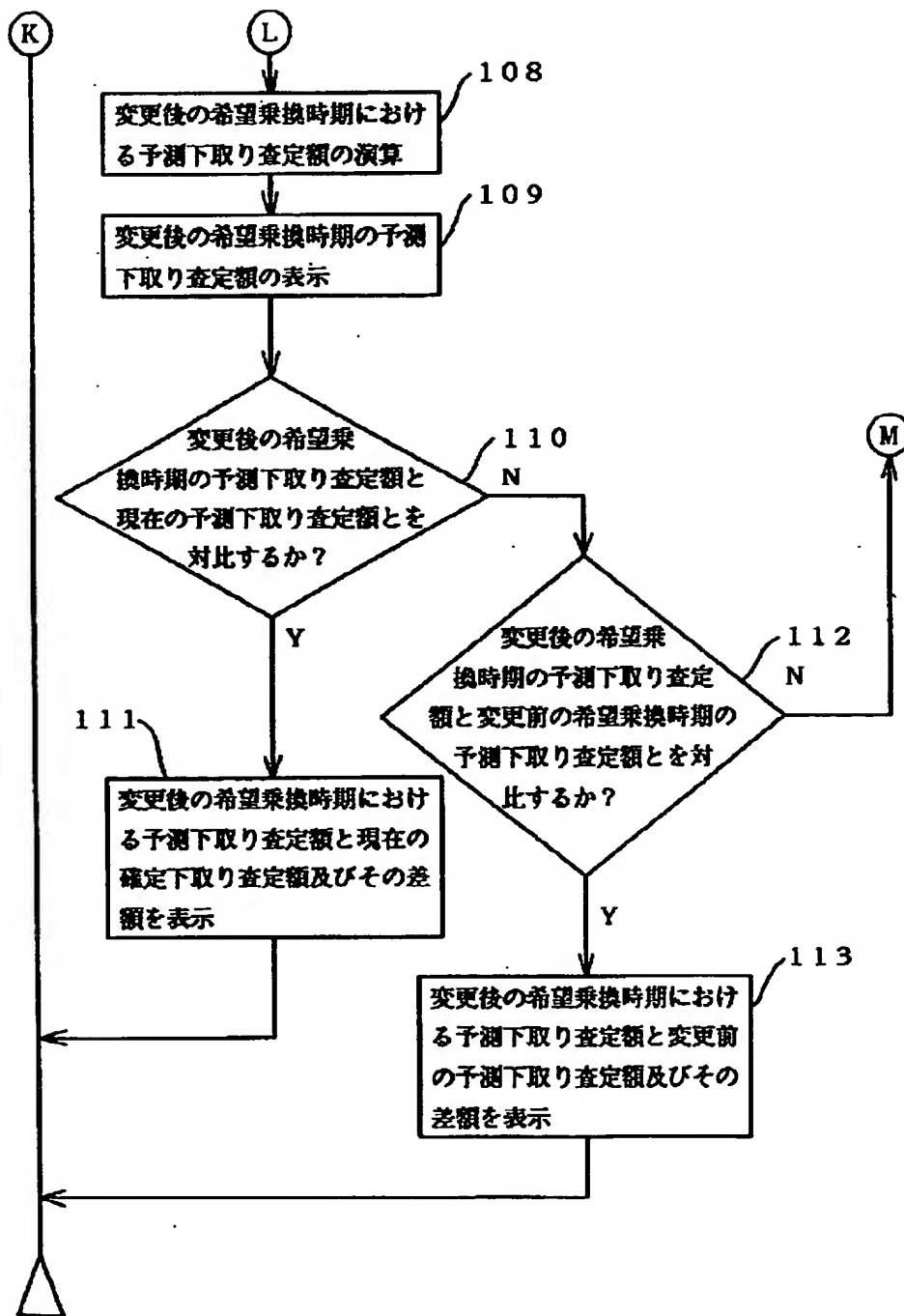
【図51】



【図52】



【図53】



【図54】

## 顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧客名 日本 太郎 様 ( ニホンタロウ )  
 顧客住所/電話 東京都港区広尾1-3-25 (03)3897-2485

初年度登録年月日 平成 7 年 12 月 8 日  
 登録番号 練馬 - 33 - 区 - 8304  
 車検満了年月日 平成 10 年 12 月 7 日  
 車台番号 88888  
 メーカー/排気量 トヨタ 3000 cc  
 車種/タイプ クラウン セダン  
 ミッション Oオートマ Oマニュアル  
 A/C有無 O有り O無し  
 S/R有無 O有り O無し  
 メーター状況 O正常 O交換歴有 O交換歴無  
 現車走行距離 13467 Km

査定区分 O本査定 O査定済  
 希望乗換時期 平成 9 年 2 月  
 査定担当者 斎藤士 和正

【図61】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

10 年 12 月現在 日本 太郎 様のお車  
 トヨタ クラウン セダン RサルーンG は  
 現在の走行距離は 40,395 Kmと推定され、6,545 Km 多走行と推定されます。  
 走行距離評価額は -¥98,175 となります。  
 車検は 10 年 12 月迄で、0 ヶ月残です。車検費評価額は ¥ 0 となります。

10 年 12 月現在の 下取り査定額は

¥1,248,106 になると推定されます!!

★★上記の査定額等は、今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
 大きな変化がないという前提条件に基づいております。  
 車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

【図57】

## 顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧客名 日本 太郎 様 ( ニホンタロウ )  
 顧客住所/電話 東京都港区虎尾1-3-25 (03)3897-2485

初年度登録年月日 平成 7 年 12 月 8 日

登録番号 国 - 33 - 区 - 8304

車検満了年月日 平成 10 年 12 月 7 日

車台番号 88888

メーカー/排気量 トヨタ 3000 cc

車種/タイプ クラウン セダン

ミッション Oオートマ Oマニュアル

A/C有無 O有り O無し

S/R有無 O有り O無し

メーター状況 O正常 O交換歴有 O交換歴出

現車走行距離 13467 Km

査定区分 O本査定 O暫定査定

希望乗換時期 平成 10 年 2 月

査定担当者 遊根士 和正

【図62】

## 現車と希望乗換時期の対比

シュミレートの結果

10 年 12 月現在の、下取り査定額は ¥1,248,106 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Km で 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23 ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥2,051,061 です。

今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥802,955 も高くなります！！

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします！！

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
 上乗りの査定額を付与し、査定額を上げる必要があります。  
 車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。



【図63】

## 希望乗換時期の変更に伴うシミュレーション査定

9 年 2 月現在 日本 太郎 様のお車  
 トヨタ クラウン セダン RサルーンG は  
 総走行距離が 15,711 Kmと査定され、2,761 Km 多走行 になると査定されます。この場合、  
 走行距離評価額は -¥41,415 となります。  
 車検は 10 年 12 月 まで、21 ヶ月間で、車検費評価額は ¥147,000 となり、  
 9 年 2 月 における下取り査定額は ¥1,981,661 となっています。  
 乗換希望時期を 10 年 2 月 に変更した場合は、総走行距離が 29,175 Kmと査定され、  
 4,825 Km 多走行 になると査定されます。この場合、走行距離評価額は -¥72,975 となります。  
 車検は 10 年 12 月 まで、9 ヶ月間とな、車検費評価額は ¥63,000 となり、  
 10 年 2 月 における下取り査定額は ¥1,597,237 となっています。

---

9 年 2 月 の希望乗換時期の下取り査定額は、10 年 2 月 の希望乗換時期  
 の下取り査定額より ¥384,424 も高くなります!!

【図70】

## 顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧 客 名 日本 太郎 様 ( ニホンタロウ )  
 顧客住所/電話 東京都港区虎尾1-3-25 (03)3897-2465

初年度登録年月日 平成 7 年 12 月 8 日

登録番号 群馬 - 33 - 狂 - 8304

車検満了年月日 平成 10 年 12 月 7 日

車 台 番 号 88888

メーカー/排気量 トヨタ 3000 cc

車種/タイプ クラウン セダン

ミッション ☐ オートマ ☐ マニュアル

A/C有無 ☐ 有り ☐ 無し

S/R有無 ☐ 有り ☐ 無し

メーター状況 ☐ 正常 ☐ 交換歴有 ☐ 交換歴無

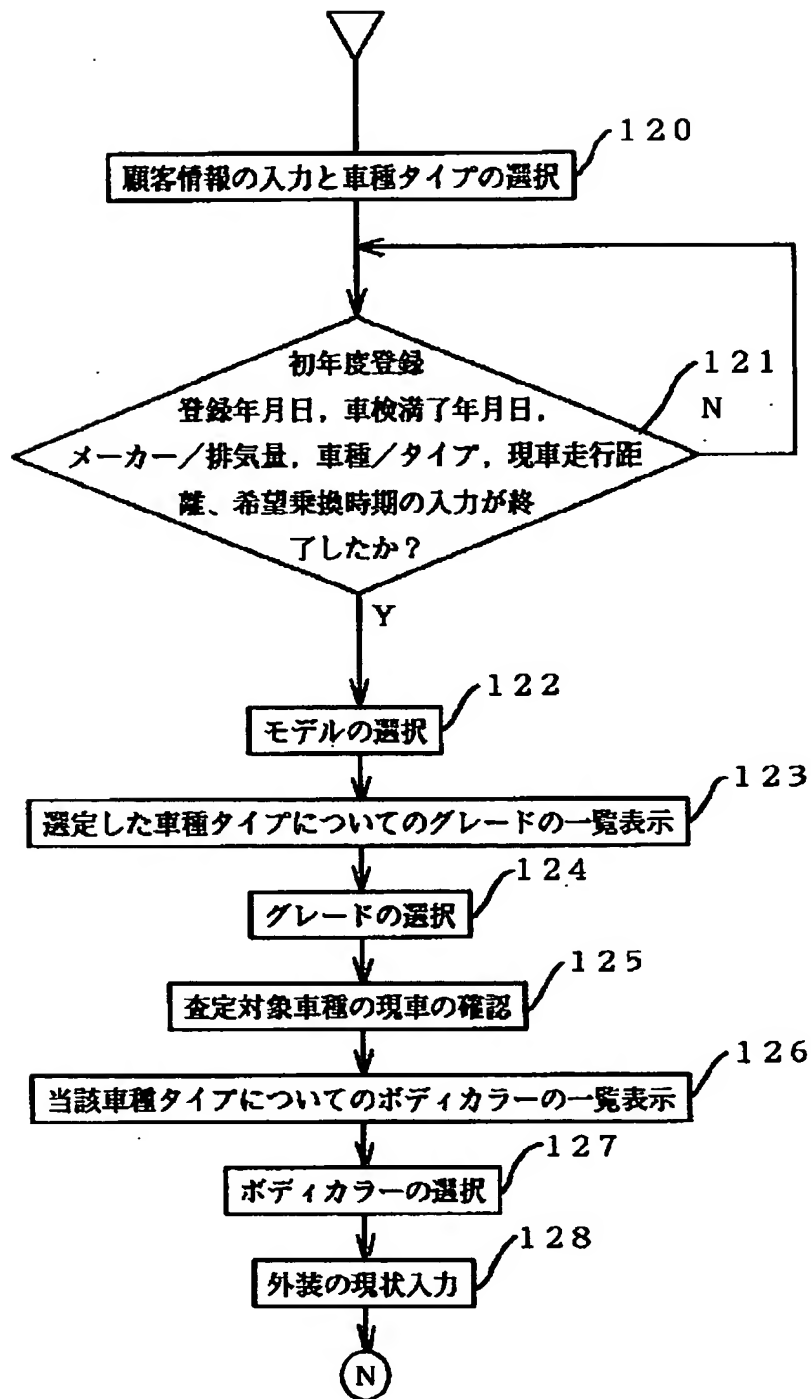
現車走行距離 13467 Km

査 定 区 分 ☐ 本査定 ☐ 暫定査定

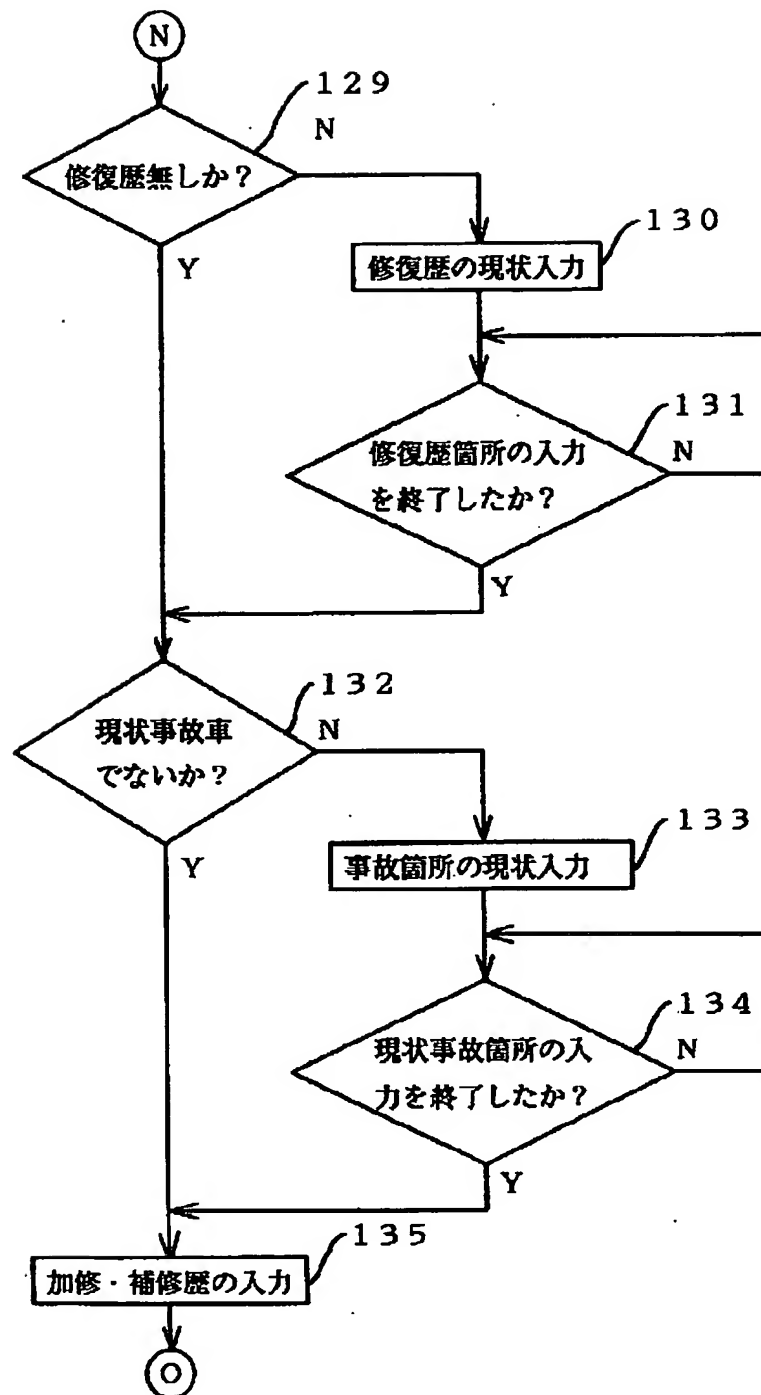
希望乗換時期 平成 9 年 2 月

査定担当者 斎藤士 和正

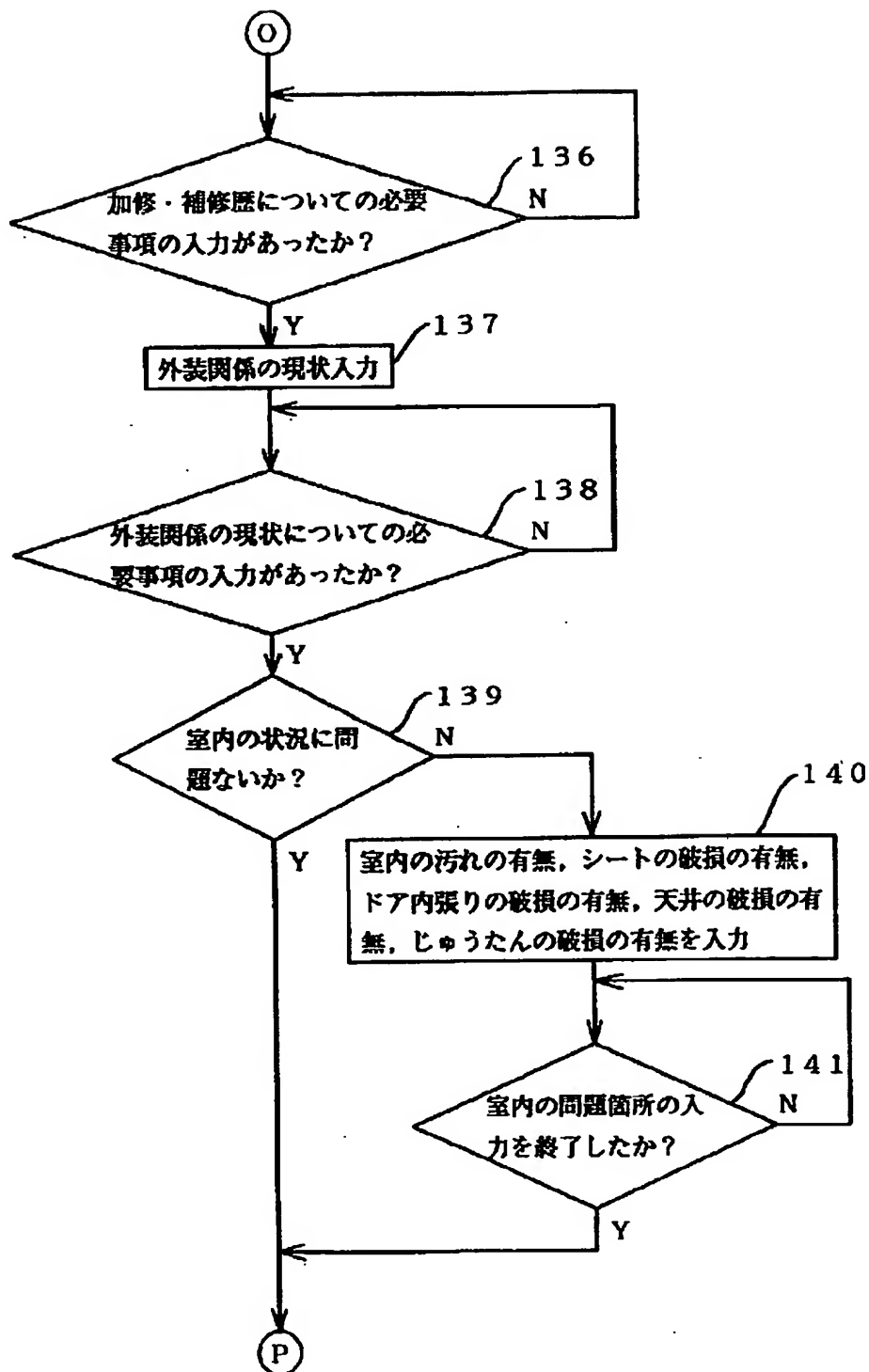
【図64】



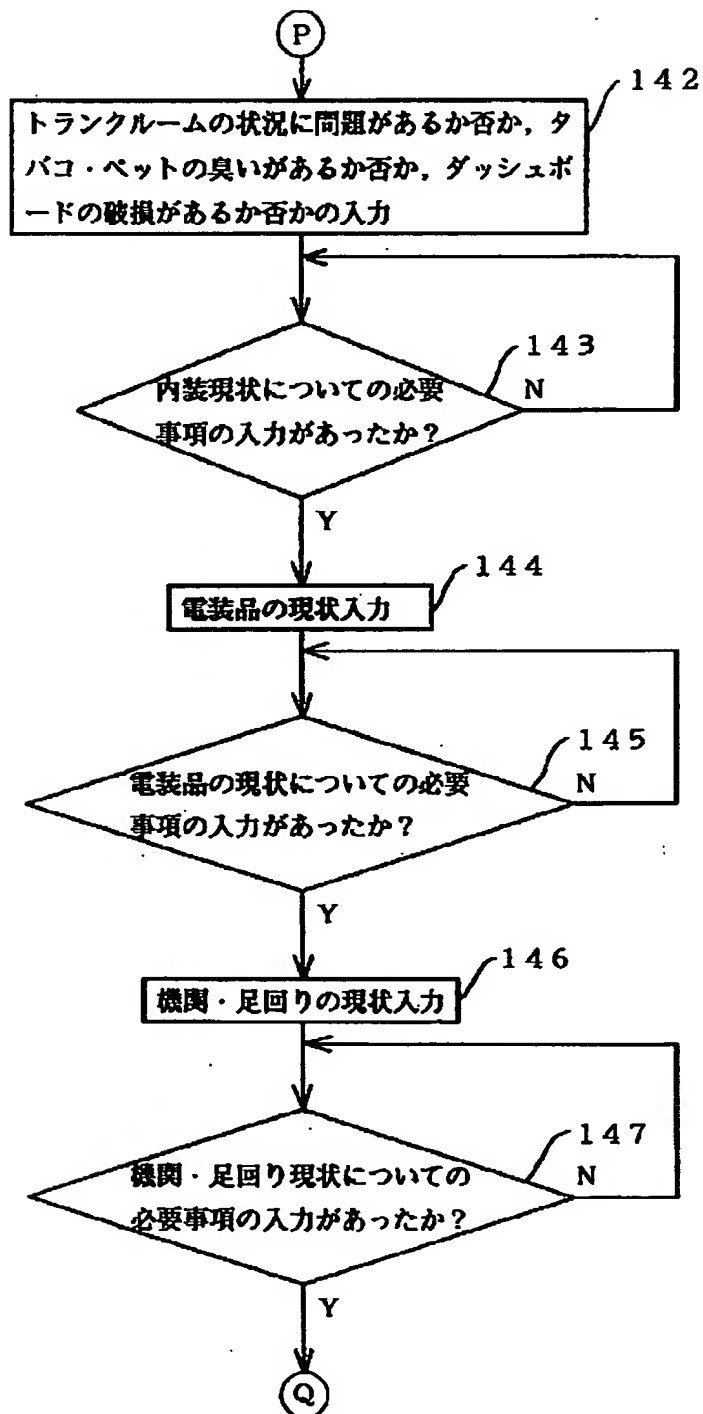
【図65】



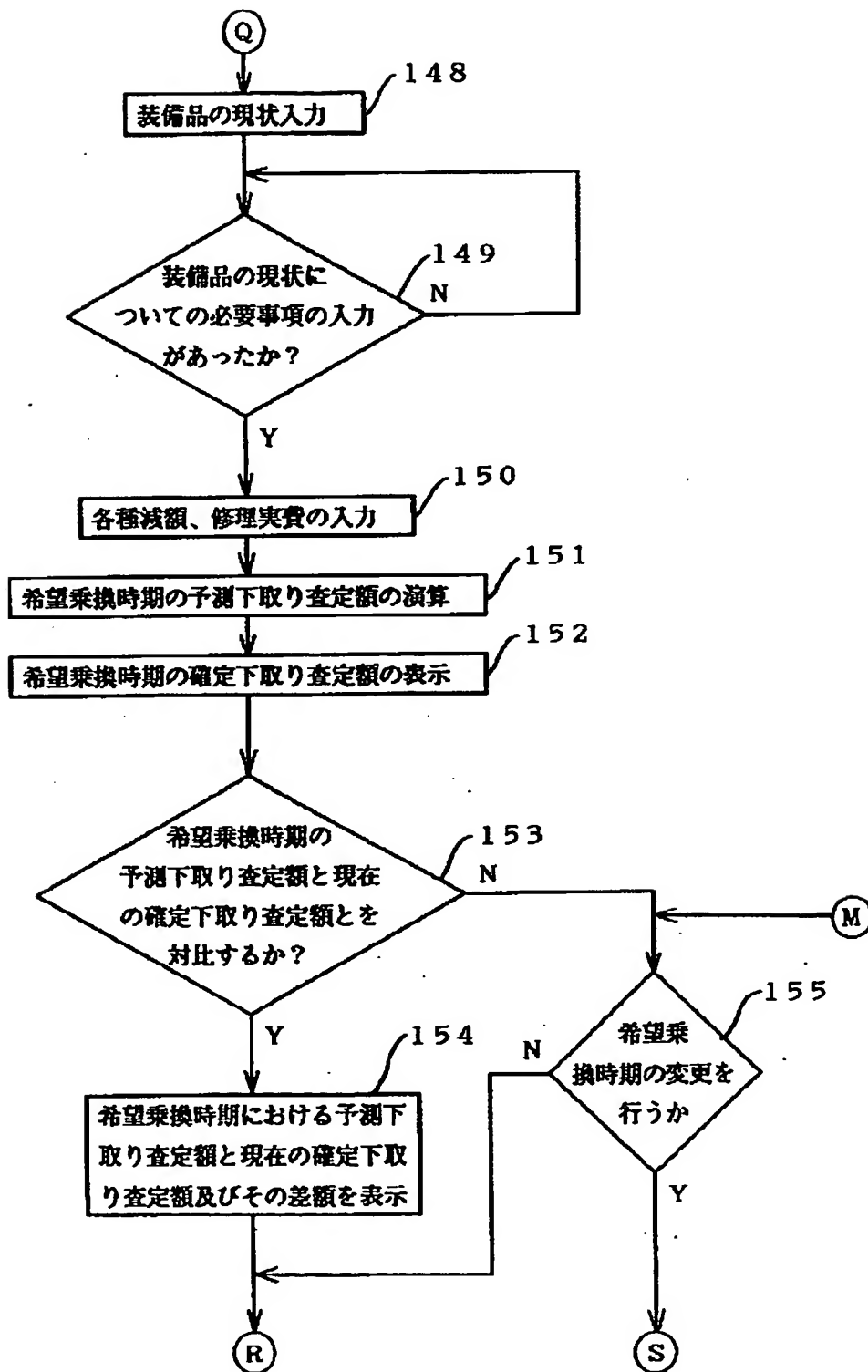
【図66】



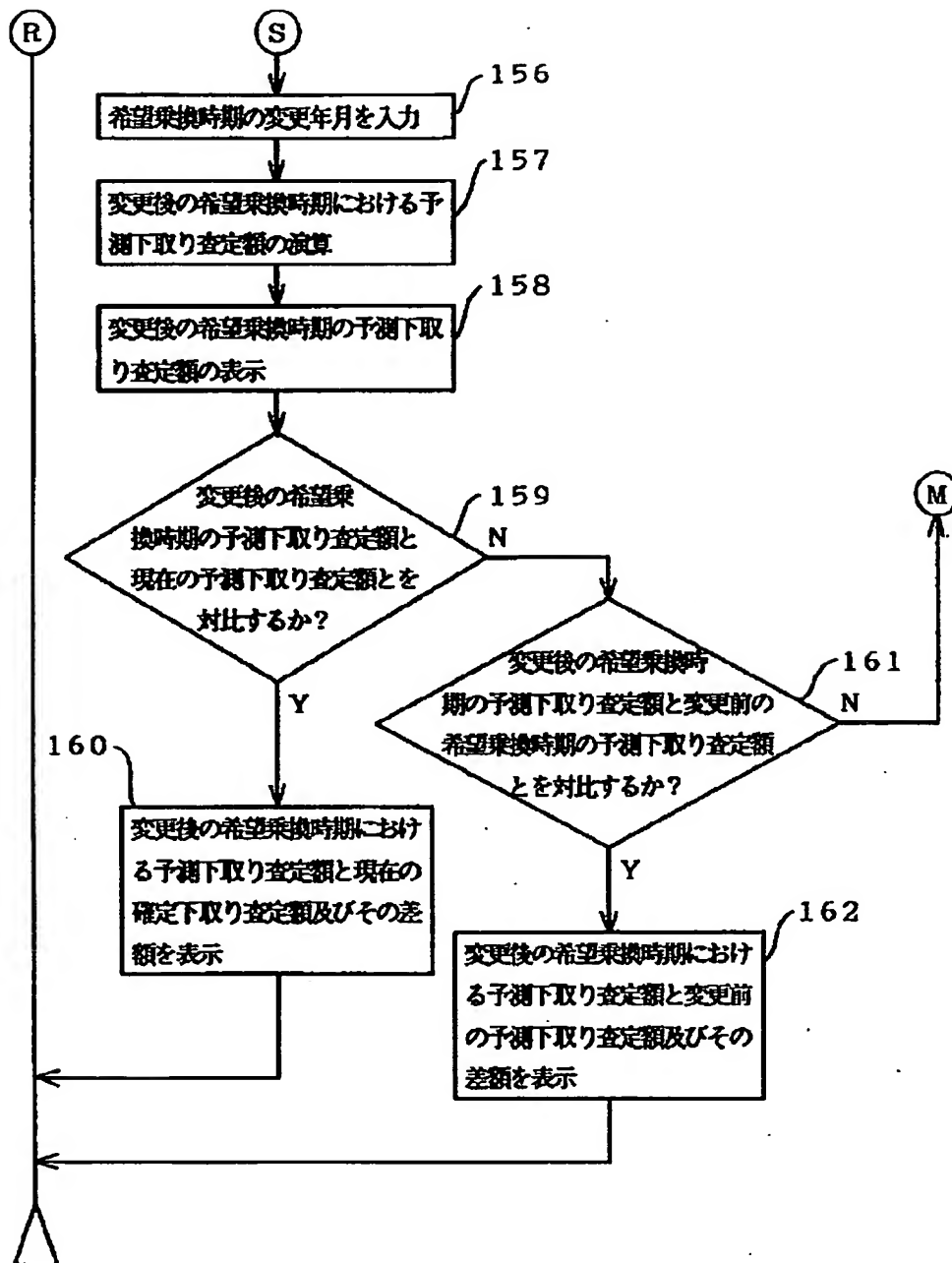
【図67】



【図68】



【図69】



## 【図71】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

8 年 12 月現在 日本 太郎 様のお車  
 トヨタ クラウン セダン RサルーンG は  
 現在の走行距離は 13,467 Kmと推定され、2,417 Km 多走行 と推定されます。  
 走行距離評価額は -¥96,255 となります。  
 車検は 10 年 12 月 迄で、23 ヶ月残です。 車検残評価額は ¥161,000 となります。

8 年 12 月 現在の 下取り査定額は

¥1,243,061 になると推定されます!!

★★上記の査定額等は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
 大きく変化が大きいということとを条件となっており、  
 車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

## 【図72】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

9 年 2 月現在 日本 太郎 様のお車  
 トヨタ クラウン セダン RサルーンG は  
 現在の走行距離は 15,711 Kmと推定され、2,761 Km 多走行 と推定されます。  
 走行距離評価額は -¥41,415 となります。  
 車検は 10 年 12 月 迄で、21 ヶ月残です。 車検残評価額は ¥147,000 となります。

9 年 2 月 現在の 下取り査定額は

¥1,981,661 になると推定されます!!

★★上記の査定額等は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
 大きく変化が大きいということとを条件となっており、  
 車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。



【図73】

現車と希望乗換時期の対比

シュミレートの結果

9 年 2 月現在の、下取り査定額は ¥1,143,661 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Km で 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23 ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥1,243,061 です。

今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥99,400 も高くなります！！

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします！！

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に大きな変化がないという条件と仮定しております。  
車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

【図74】

希望乗換時期のシュミレーション査定

10 年 2 月現在 日本 太郎 様のお車

トヨタ クラウン セダン RサルーンG は

現在の走行距離は 29,175 Km と推定され、4,825 Km 多走行 と推定されます。

走行距離評価額は -¥72,375 となります。

車検は 10 年 12 月迄で、9 ヶ月残です。車検残評価額は ¥63,000 となります。

10 年 2 月現在の 下取り査定額は

¥754,669 になると推定されます！！

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に大きな変化がないという条件と仮定しております。  
車両の状況が著しく変化した場合に再査定する必要があります。

## 【図75】

## 現車と希望乗換時期の対比

シュミレートの結果

10年 2月現在の、下取り査定額は ¥754,669 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Kmで 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥1,213,061 です。

今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥458,392 も高くなります!!

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きな変化がないという前提となっており、  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

## 【図76】

## 希望乗換時期のシュミレーション査定

10年 12月現在 日本 太郎 様のお車

トヨタ クラウン セダン RサルーンG は

現在の走行距離は 40,375 Kmと推定され、6,545 Km 多走行 と推定されます。

走行距離評価額は -¥98,175 となります。

車検は 10年 12月 迄で、1ヶ月残です。車検残評価額は ¥7,000 となります。

10年 12月 現在の 下取り査定額は

¥629,077 になると推定されます!!

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きな変化がないという前提となっており、  
車両の状況が著しく変化した場合は再査定する必要があります。

## 【図77】

## 現車と希望乗換時期の対比

シュミレーションの結果

10年 12月現在の、下取り査定額は ¥629,077 になると推定されています。

今日現在の現車の状況は

走行距離が 13,467 Kmで 2,417 Km 多走行 となり

走行距離評価額は -¥36,255 となります。

車検は 23 ヶ月残っていて、その評価額は ¥161,000 です。

これらの値を加味した、今日現在の下取り査定額は ¥1,243,061 です。

今日現在の下取り査定額は、希望乗換時期より ¥613,984 も高くなります！！

有利な条件の今、お乗り換えをおすすめします！！

★★上記の査定額は今後、乗換希望年月まで車両の状況に  
大きく変化の無いという条件となっております。  
車両の状況が大きく変化した場合に再査定する必要があります。

## 【図78】

## 希望乗換時期の変更に伴うシュミレーション査定

9年 2月現在 日本 太郎 様のお車

トヨタ クラウン セダン RサルーンG は

総走行距離が 15,711 Kmと推定され、2,761 Km 多走行 になると推定されます。この場合、

走行距離評価額は -¥41,415 となります。

車検は 10年 12月 まで、21 ヶ月残で、車検残評価額は ¥147,000 となり、

9年 2月 における下取り査定額は ¥1,143,661 となっています。

乗換希望時期を 10年 2月 に変更した場合は、総走行距離が 29,175 Kmと推定され、

4,825 Km 多走行 になると推定されます。この場合、走行距離評価額は -¥72,375 となります。

車検は 10年 12月 まで、9 ヶ月残とな、車検残評価額は ¥63,000 となり、

10年 2月 における下取り査定額は ¥754,669 となっています。

9年 2月 の希望乗換時期の下取り査定額は、10年 2月 の希望乗換時期

の下取り査定額より ¥388,992 も高くなります！！